

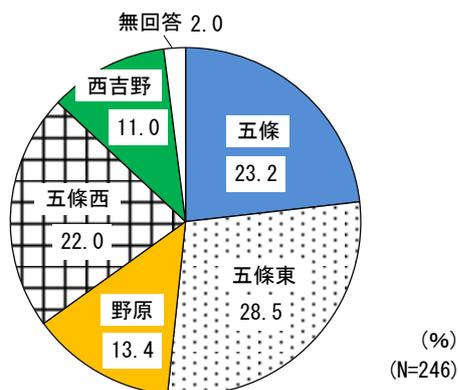
第 2 章 調査結果

1 基本属性

(1) 中学校区

あなたの現在勤務する中学校区はどちらですか。

【図表 1-1 中学校区】

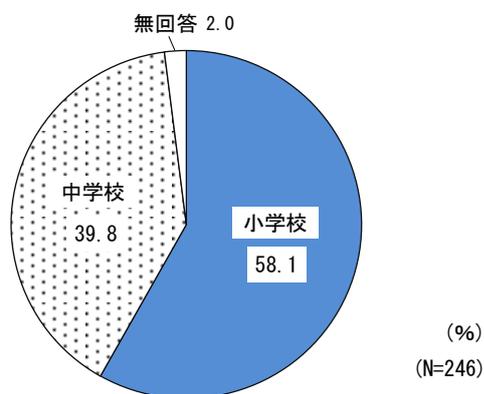


中学校区としては、「五條東」が3割弱（28.5%）と最も高く、次いで「五條」が23.2%、「五條西」が22.0%となっている。

(2) 種別

あなたの現在の勤務校種別はどちらですか。

【図表 1-2 種別】



勤務校種別としては、「小学校」が6割弱（58.1%）、「中学校」が約4割（39.8%）となっている。

【図表 1-2-1 中学校区別 種別】

(上段：人、下段：%)

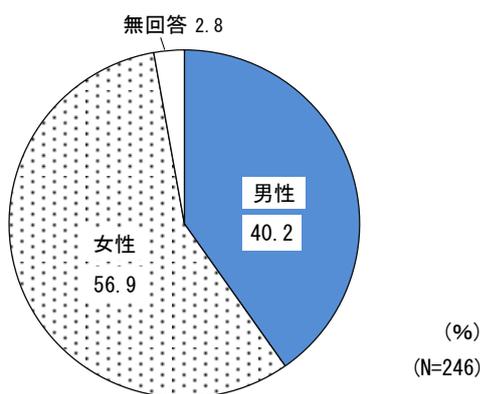
	調査数	小学校	中学校
五條	57 100.0	35 61.4	22 38.6
五條東	70 100.0	47 67.1	23 32.9
野原	33 100.0	15 45.5	18 54.5
五條西	54 100.0	33 61.1	21 38.9
西吉野	27 100.0	13 48.1	14 51.9

中学校区別に勤務校種別をみると、五條東中学校区、五條中学校区、五條西中学校区では「小学校」、野原中学校区、西吉野中学校区では「中学校」がそれぞれ過半数を占めている。

(3) 性別

問1 あなたの性別はどちらですか。

【図表 1-3 性別】

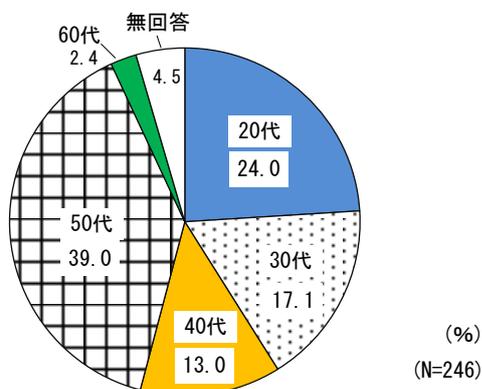


回答者の性別としては、「男性」が 40.2%に対し、「女性」が 56.9%と、16.7 ポイント高くなっている。

(4) 年齢

問2 あなたの年齢を教えてください。

【図表 1-4 年齢】



回答者の年齢としては、「50代」が約4割（39.0%）と最も高く、次いで「20代」が24.0%、「30代」が17.1%となっている。

【図表 1-4-1 年齢別 性別】

(上段：人、下段：%)

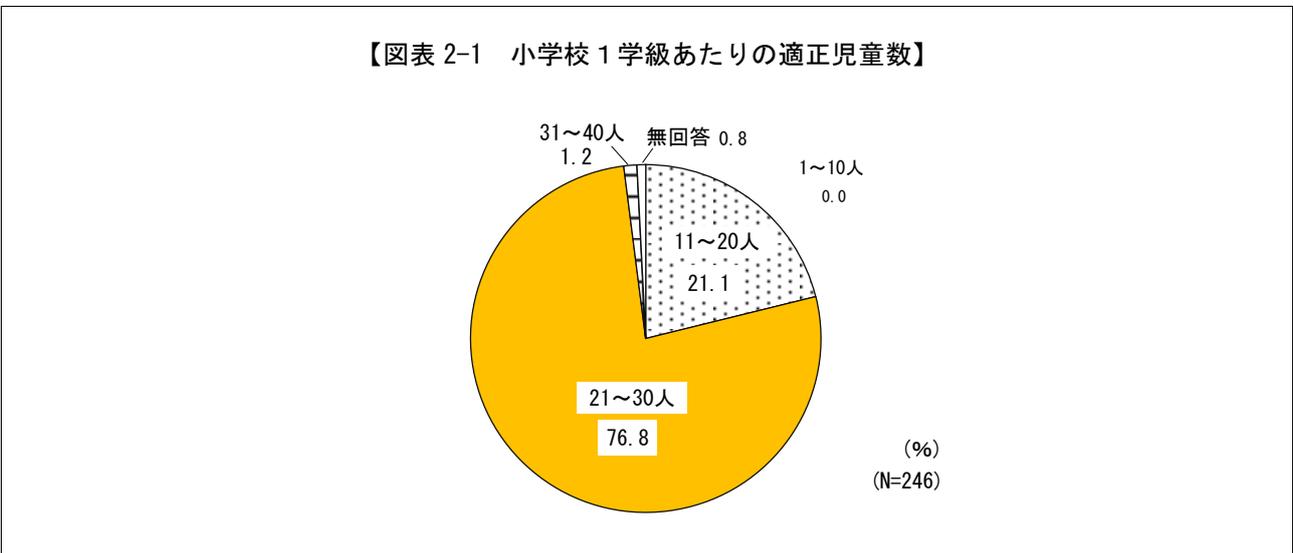
	調査数	男性	女性
20代	59	32	27
	100.0	54.2	45.8
30代	42	16	26
	100.0	38.1	61.9
40代	32	13	19
	100.0	40.6	59.4
50代	96	37	59
	100.0	38.5	61.5
60代	6	1	5
	100.0	16.7	83.3

年齢別に性別をみると、20代では「男性」が過半数を占めているものの、30代以上ではいずれも女性が過半数を占めている。

2 小学校の適正人数及び学級数について

(1) 小学校1学級あたりの適正児童数

問3 小学校1学級あたりの人数についてお尋ねします。望ましい1学級あたりの児童数は、何人程度がよいと思いますか。次の項目の中から1つに○を付けてください。



小学校1学級あたりの望ましい児童数としては、「21～30人」が7割台（76.8%）を占めており、「11～20人」が21.1%、「31～40人」が1.2%となっている。

【図表 2-1-1 中学校区別 小学校1学級あたりの適正児童数】
(上段：人、下段：%)

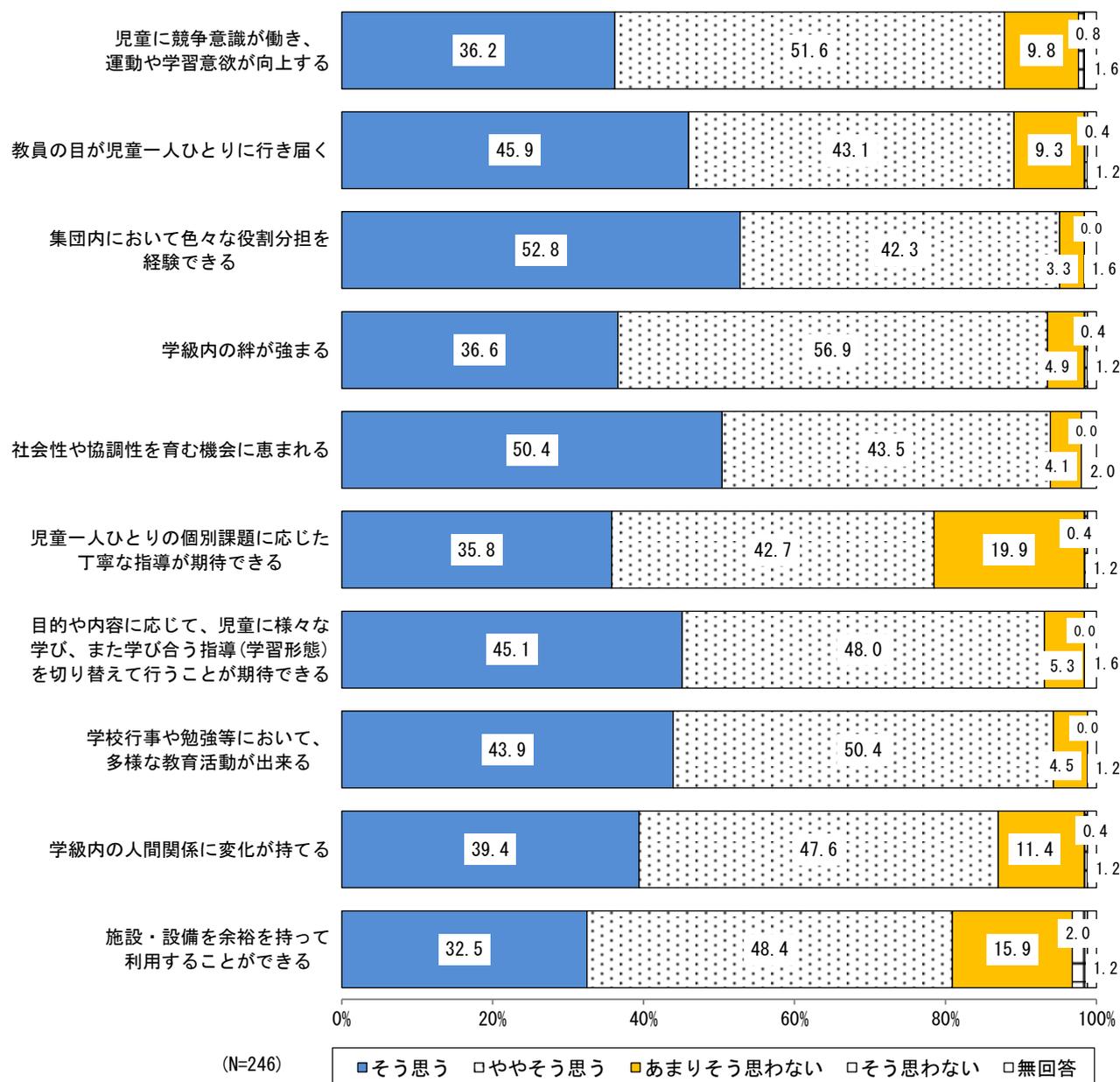
	調査数	1人	2人	3人	無回答
		1人	1人	1人	
		5人	5人	5人	
		2人	3人	4人	
		0人	0人	0人	
五條	57	15	41	1	-
	100.0	26.3	71.9	1.8	-
五條東	70	14	55	1	-
	100.0	20.0	78.6	1.4	-
野原	33	9	23	-	1
	100.0	27.3	69.7	-	3.0
五條西	54	8	44	1	1
	100.0	14.8	81.5	1.9	1.9
西吉野	27	6	21	-	-
	100.0	22.2	77.8	-	-

中学校区別にみると、いずれの校区も「21～30人」が6～8割台を占めており、五條西中学校区で81.5%と最も高くなっている。

(2) 小学校1学級あたりの適正児童数の回答理由

問4 「小学校1学級あたりの人数」で選んだ回答の理由として、それぞれの項目に対し、あなたの考えに近い番号に○を付けてください。

【図表 2-2 小学校1学級あたりの適正児童数の回答理由】



小学校1学級あたりの適正児童数の回答理由として、主な10項目に対する考えをたずねたところ、「そう思う」が『集団内において色々な役割分担を経験できる』で52.8%、『社会性や協調性を育む機会に恵まれる』で50.4%と、ともに過半数を占めている。また、「ややそう思う」を合わせた“思う”という割合は概ねいずれの項目も8～9割台となっている。

【図表 2-2-1 小学校 1 学級あたりの適正児童数(問 3)別 小学校 1 学級あたりの適正児童数の回答理由「そう思う」】

※各項目において「そう思う」と回答した割合について掲載している。

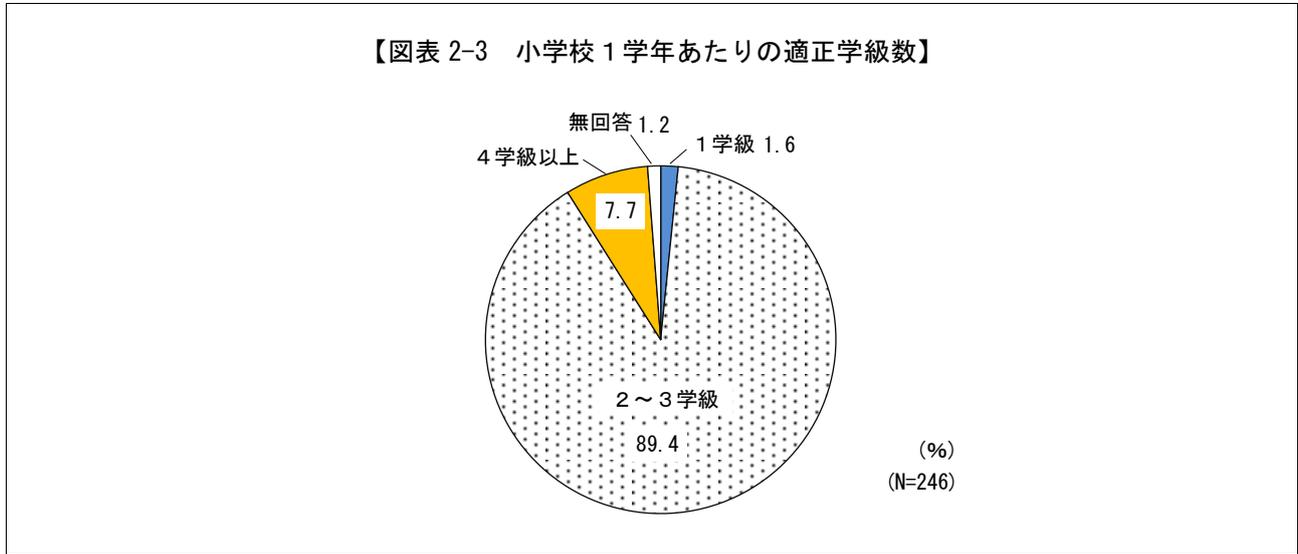
(上段：人、下段：%)

	調査数	向上、児童に競争意識が働 き、運動や学習意欲が 向上する	教員の目が児童一人ひと りに行き届く	集団内において色々な 役割分担を経験できる	学級内の絆が強まる	社会性や協調性を育む 機会に恵まれる	児童一人ひとりの個別 課題に応じた丁寧な指 導が期待できる	児童一人ひとりの個別 課題に応じた丁寧な指 導が期待できる	目的や内容に応じて、児 童に様々な学び、また学 び合う指導(学習形態) を切り替えて行う	学校行事や勉強等にお いて、多様な教育活動 が出来る	学級内の人間関係に変 化が持てる	施設・設備を余裕を 持つて利用することが できる
11～20人	52 100.0	10 19.2	36 69.2	24 46.2	25 48.1	16 30.8	34 65.4	21 40.4	18 34.6	9 17.3	28 53.8	
21～30人	189 100.0	76 40.2	76 40.2	104 55.0	63 33.3	104 55.0	53 28.0	87 46.0	87 46.0	85 45.0	51 27.0	
31～40人	3 100.0	2 66.7	1 33.3	2 66.7	2 66.7	3 100.0	1 33.3	2 66.7	2 66.7	2 66.7	1 33.3	

各項目における「そう思う」と回答した割合について、小学校 1 学級あたりの適正児童数(問 3)別にみると、11～20 人が適正という人では『教員の目が児童一人ひとりに行き届く』が 69.2%、『児童一人ひとりの個別課題に応じた丁寧な指導が期待できる』が 65.4%と高くなっている。これに対し、21～30 人が適正という人では『集団内において色々な役割分担を経験できる』、『社会性や協調性を育む機会に恵まれる』がともに 55.0%と最も高くなっている。

(3) 小学校1学年あたりの適正学級数

問5 小学校1学年あたりの学級数についてお尋ねします。望ましい1学年あたりの学級数は何学級がよいと思いますか。次の項目の中から1つに○を付けてください。



小学校1学年あたりの望ましい学級数としては、「2～3学級」が約9割（89.4%）を占めており、「4学級以上」は7.7%、「1学級」は1.6%となっている。

【図表 2-3-1 中学校区別 小学校1学年あたりの適正学級数】

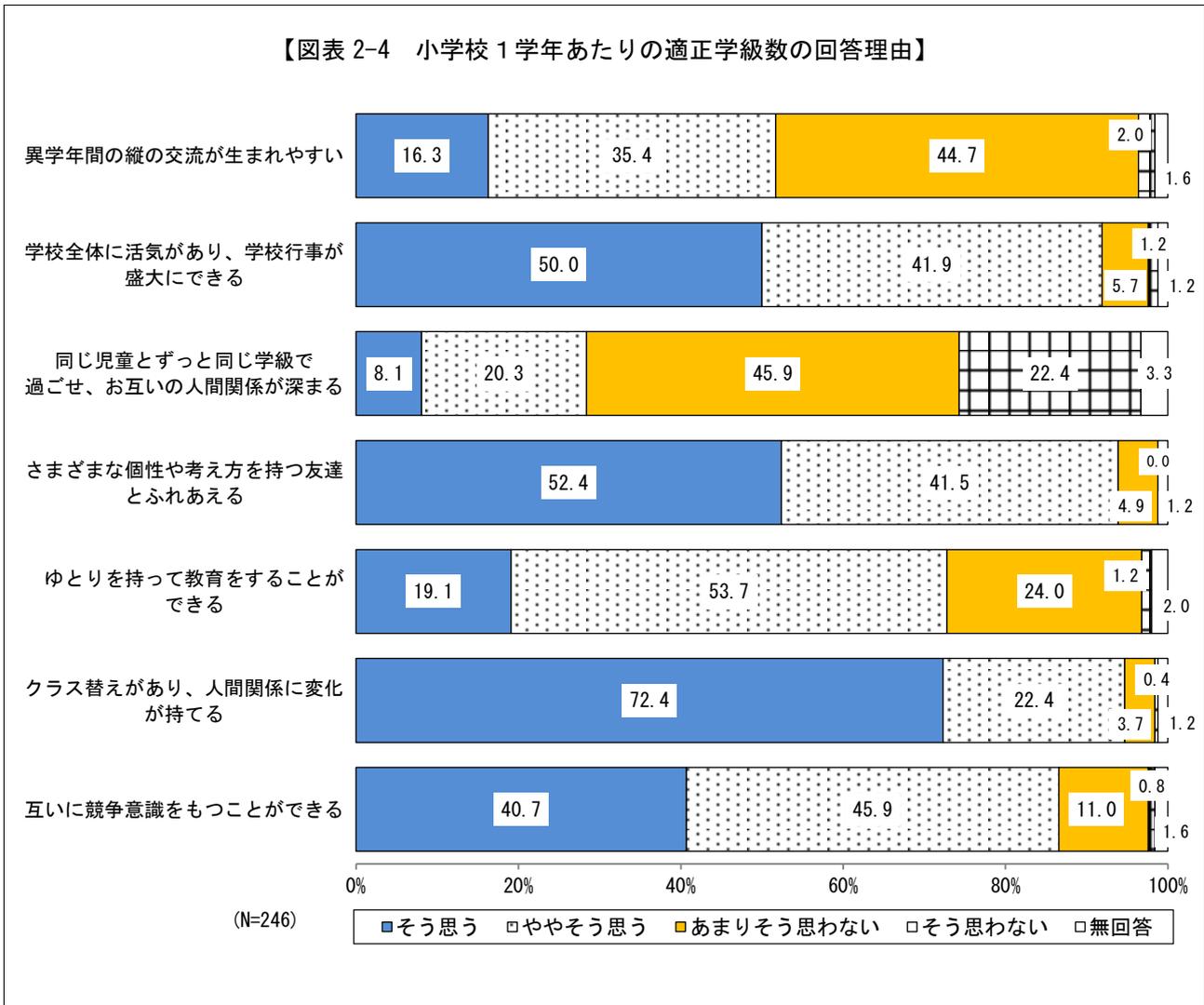
(上段：人、下段：%)

中学校区	調査数	1学級	2～3学級	4学級以上	無回答
五條	57	1	52	2	2
	100.0	1.8	91.2	3.5	3.5
五條東	70	2	58	10	-
	100.0	2.9	82.9	14.3	-
野原	33	-	33	-	-
	100.0	-	100.0	-	-
五條西	54	-	48	5	1
	100.0	-	88.9	9.3	1.9
西吉野	27	1	25	1	-
	100.0	3.7	92.6	3.7	-

中学校区別にみると、いずれの校区も「2～3学級」が8割以上を占めている。一方、「4学級以上」は五條東中学校区で14.3%と最も高い。

(4) 小学校1学年あたりの適正学級数の回答理由

問6 「小学校1学年あたりの学級数」で選んだ回答の理由として、それぞれの項目に対し、あなたの考えに近い欄に○を付けてください。



小学校1学年あたりの適正学級数の回答理由として、主な7項目に対する考えをたずねたところ、「そう思う」が『クラス替えがあり、人間関係に変化が持てる』で7割強（72.4%）と最も高く、次いで『さまざまな個性や考えを持つ友達とふれあえる』で52.4%、『学校全体に活気があり、学校行事が盛大にできる』で50.0%、『互いに競争意識をもつことができる』で40.7%となっている。

【図表 2-4-1 小学校 1 学年あたりの適正学級数(問 5)別 小学校 1 学年あたりの適正学級数の回答理由「そう思う」】

※各項目において「そう思う」と回答した割合について掲載している。

(上段：人、下段：%)

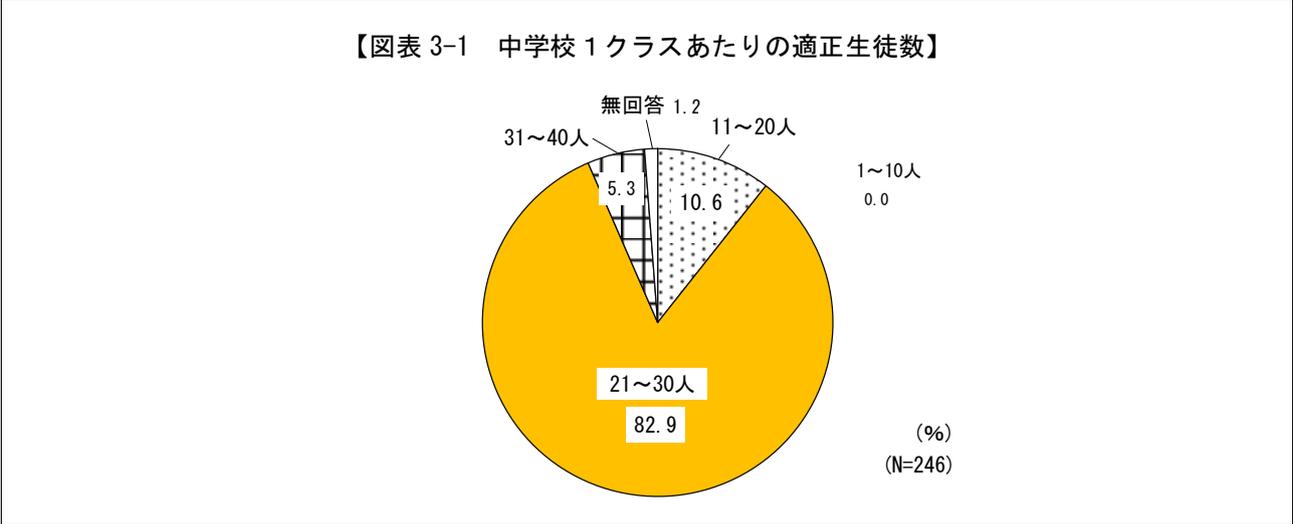
	調査数	生まれやすい縦の交流が	できる、学校全体に活気が盛大に	の学級で過ごせ、お互いの人間関係が深まる	同じ児童とつとむ	え方を持つ友達とふれあえる	さまざまな個性や考え	すゆとりのことができて教育を	間クラス替えがあり、人	こ互いに競争意識をもつ
1 学級	4 100.0	3 75.0	1 25.0	- -	- -	2 50.0	- -	- -	- -	
2～3 学級	220 100.0	36 16.4	105 47.7	19 8.6	113 51.4	41 18.6	160 72.7	86 39.1		
4 学級以上	19 100.0	1 5.3	17 89.5	1 5.3	16 84.2	4 21.1	18 94.7	14 73.7		

各項目における「そう思う」と回答した割合について、小学校 1 学年あたりの適正学級数(問 5)別にみると、2～3 学級が適正という人では『クラス替えがあり、人間関係に変化が持てる』が 7 割強 (72.7%) と最も高く、次いで『さまざまな個性や考え方を持つ友達とふれあえる』が 51.4%、『学校全体に活気があり、学校行事が盛大にできる』が 47.7%となっている。

3 中学校の適正人数及び学級数について

(1) 中学校 1クラスあたりの適正生徒数

問7 中学校 1クラスあたりの人数についてお尋ねします。望ましい1学級あたりの生徒数は、何人程度がよいと思いますか。次の項目の中から1つに○を付けてください。



中学校 1クラスあたりの適正生徒数としては、「21~30 人」が8割強（82.9%）を占めており、「11~20 人」が10.6%、「31~40 人」が5.3%となっている。

【図表 3-1-1 中学校区別 中学校 1クラスあたりの適正生徒数】

(上段：人、下段：%)

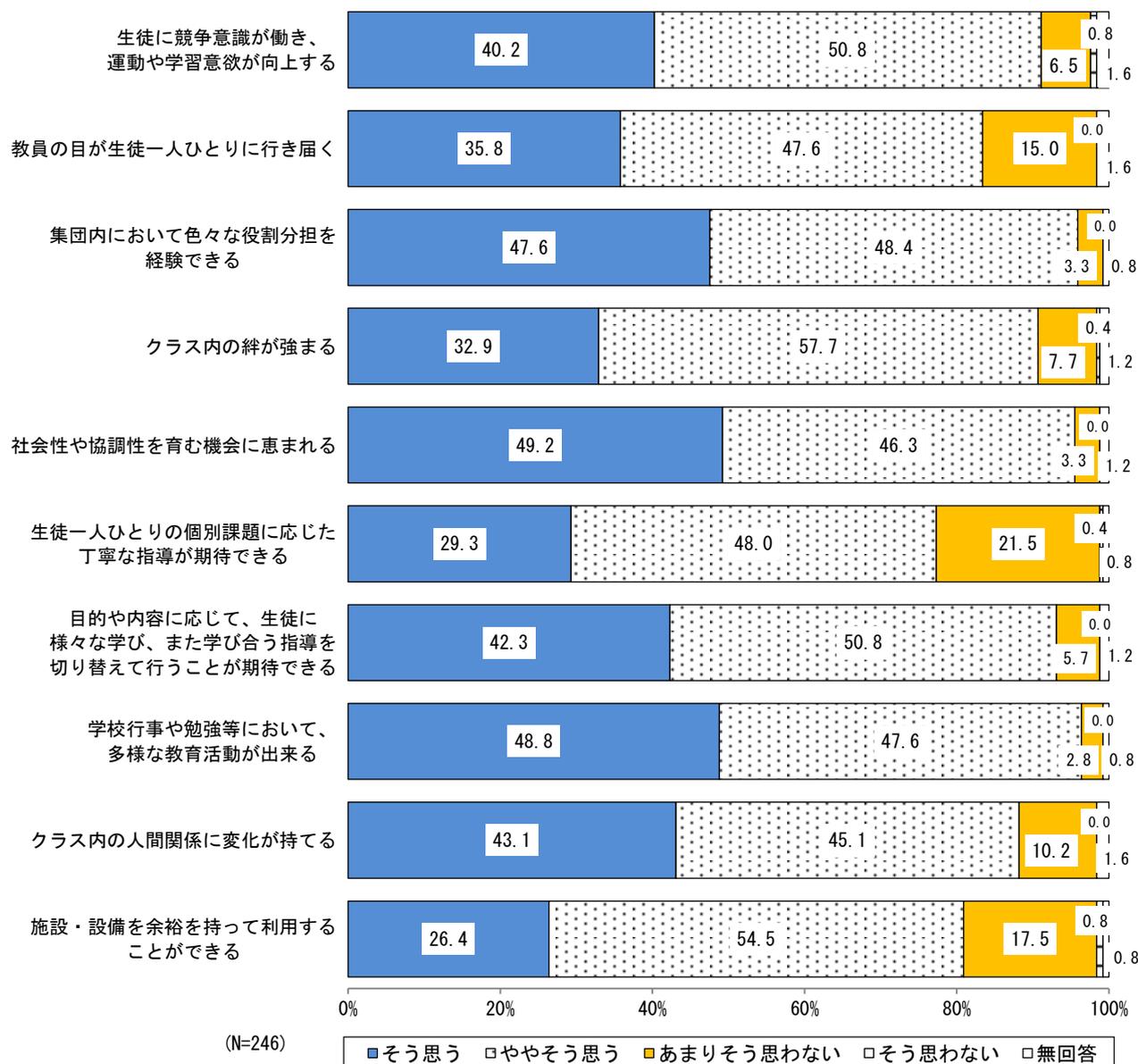
	調査数	1	2	3	無回答
		人	人	人	
五條	57	7	46	3	1
	100.0	12.3	80.7	5.3	1.8
五條東	70	5	60	5	-
	100.0	7.1	85.7	7.1	-
野原	33	5	28	-	-
	100.0	15.2	84.8	-	-
五條西	54	5	43	4	2
	100.0	9.3	79.6	7.4	3.7
西吉野	27	4	22	1	-
	100.0	14.8	81.5	3.7	-

中学校区別にみると、いずれの校区も「21~30 人」が7~8割台を占めており、五條東中学校区で85.7%、野原中学校区で84.8%と高い。一方、「11~20 人」が野原中学校区(15.2%)、西吉野中学校区 (14.8%)、五條中学校区 (12.3%) で1割台みられる。

(2) 中学校1クラスあたりの適正生徒数の回答理由

問8 「中学校1クラスあたりの人数」で選んだ回答の理由として、それぞれの項目に対し、あなたの考えに近い欄に○を付けてください。

【図表 3-2 中学校1クラスあたりの適正生徒数の回答理由】



中学校1学級あたりの適正児童数の回答理由として、主な10項目に対する考えをたずねたところ、「そう思う」が『社会性や協調性を育む機会に恵まれる』で49.2%、『学校行事や勉強等において、多様な教育活動が出来る』で48.8%、『集団内において色々な役割分担を経験できる』で47.6%と、いずれも半数近くを占めている。また、「ややそう思う」を合わせた“思う”という割合は概ねいずれの項目も8～9割台となっている。

【図表 3-2-1 中学校 1 クラスあたりの適正生徒数(問 7)別 中学校 1 クラスあたりの適正生徒数の回答理由「そう思う」】

※各項目において「そう思う」と回答した割合について掲載している。

(上段：人、下段：%)

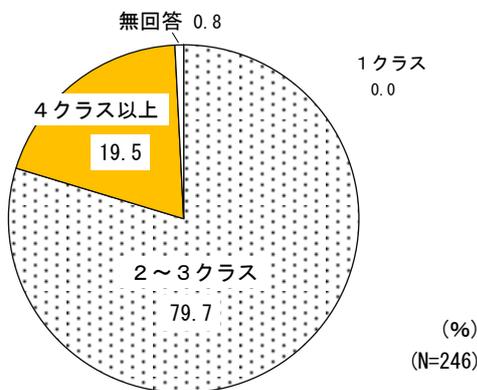
	調査数	向上する 生徒に競争意識が働 き、運動や学習意欲が	教員の目が生徒一人ひとりに行き届く	集団内において色々な役割分担を経験できる	クラス内の絆が強まる	社会性や協調性を育む機会に恵まれる	生徒一人ひとりの個別課題に応じた丁寧な指導が期待できる	様々な学び、また学 び合う指導を切り替えて 行うことが期待できる	目的や内容に応じて、生徒に様々な学び、また学 び合う指導を切り替えて 行うことが期待できる	学校行事や勉強等において、多様な教育活動 が出来る	クラス内の人間関係に 変化が持てる	施設・設備を余裕が 持つて利用することが できる
11～20人	26 100.0	3 11.5	16 61.5	8 30.8	13 50.0	6 23.1	13 50.0	10 38.5	9 34.6	7 26.9	10 38.5	
21～30人	204 100.0	86 42.2	70 34.3	101 49.5	62 30.4	104 51.0	57 27.9	87 42.6	101 49.5	90 44.1	52 25.5	
31～40人	13 100.0	10 76.9	2 15.4	8 61.5	5 38.5	11 84.6	2 15.4	7 53.8	9 69.2	9 69.2	3 23.1	

各項目における「そう思う」と回答した割合について、中学校 1 クラスあたりの適正児童数(問 7)別にみると、21～30 人が適正という人では『社会性や協調性を育む機会に恵まれる』が 51.0%と最も高く、次いで『集団内において色々な役割分担を経験できる』、『学校行事や勉強等において、多様な教育活動が出来る』がともに 49.5%となっている。また、11～20 人が適正という人では『教員の目が生徒一人ひとりに行き届く』(61.5%)、31～40 人が適正という人では『社会性や協調性を育む機会に恵まれる』(84.6%) がそれぞれ最も高くなっている。

(3) 中学校 1 学年あたりの適正クラス数

問9 中学校 1 学年あたりのクラス数についてお尋ねします。望ましい 1 学年あたりのクラス数は、何クラスがよいと思いますか。次の項目の中から 1 つに○ を付けてください。

【図表 3-3 中学校 1 学年あたりの適正クラス数】



中学校 1 学年あたりの望ましいクラス数としては、「2～3クラス」が約 8 割 (79.7%) を占めており、次いで「4クラス以上」が 19.5% となっている。

【図表 3-3-1 中学校別 中学校 1 学年あたりの適正クラス数】

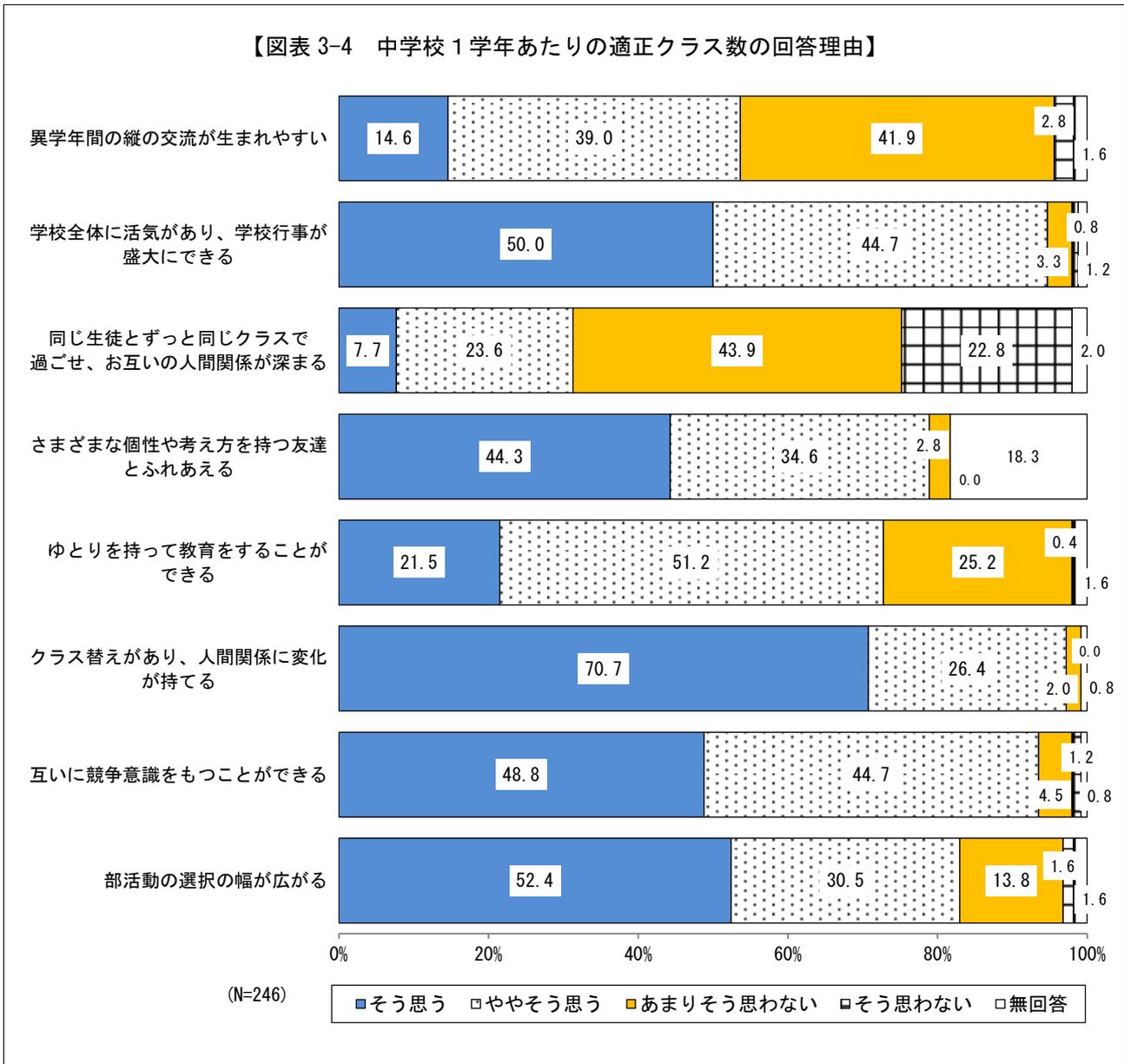
(上段：人、下段：%)

	調査数	2 ～ 3 ク ラ ス	4 ク ラ ス 以 上	無 回 答
五條	57 100.0	49 86.0	8 14.0	- -
五條東	70 100.0	51 72.9	19 27.1	- -
野原	33 100.0	28 84.8	5 15.2	- -
五條西	54 100.0	39 72.2	13 24.1	2 3.7
西吉野	27 100.0	26 96.3	1 3.7	- -

中学校別に見ると、いずれの校区も「2～3クラス」が 7～9 割台を占めており、西吉野中学校区で 96.3% と最も高い。一方、「4クラス以上」が五條東中学校区で 27.1%、五條西中学校区で 24.1% と高くなっている。

(4) 中学校1学年あたりの適正クラス数の回答理由

問10 「中学校1学年あたりのクラス数」で選んだ回答の理由として、それぞれの項目に対し、あなたの考えに近い欄に○を付けてください。



中学校1学年あたりの適正クラス数の回答理由として、主な8項目に対する考えをたずねたところ、「そう思う」が『クラス替えがあり、人間関係に変化が持てる』で約7割(70.7%)、と最も高く、次いで『部活動の選択の幅が広がる』で52.4%、『学校全体に活気があり、学校行事が盛大にできる』で50.0%、『互いに競争意識をもつことができる』で48.8%、『さまざまな個性や考えを持つ友達とふれあえる』で44.3%となっている。

【図表 3-4-1 中学校 1 学年あたりの適正クラス数(問 9) 別 中学校 1 学年あたりの適正クラス数の回答理由「そう思う」】

※各項目において「そう思う」と回答した割合について掲載している。

(上段：人、下段：%)

	調査数	生まれやすい異学年間の縦の交流がある	学校全体に活気が盛んで、学校行事が盛大にできる	人間の関係が深まる	同じ生徒と過ごす時間が過剰	さまざまな友達とふれあえる	余裕を持って教育を	クラス替えがあり、人間関係に変化が持てる	互いに競争意識をもつことができる	部活動の選択の幅が広がる
2～3クラス	196 100.0	32 16.3	88 44.9	15 7.7	78 39.8	48 24.5	134 68.4	89 45.4	93 47.4	
4クラス以上	48 100.0	4 8.3	35 72.9	4 8.3	31 64.6	5 10.4	40 83.3	31 64.6	36 75.0	

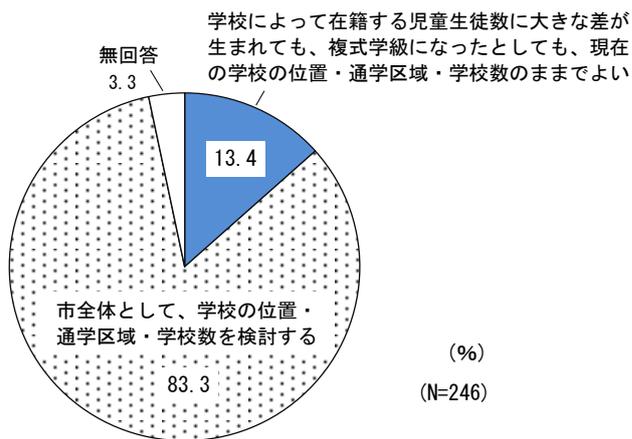
各項目における「そう思う」と回答した割合について、中学校 1 学年あたりの適正クラス数(問 9) 別にみると、『クラス替えがあり、人間関係に変化が持てる』が、4 クラス以上が適正という人で 83.3%、2～3 クラスが適正という人で 68.4%と、ともに最も高くなっている。また、これに続くのが、ともに『部活動の選択の幅が広がる』となっており、4 クラス以上が適正という人で 75.0%、2～3 クラスが適正という人で 47.4%となっている。

4 これからの五條市の学校について

(1) 今後児童生徒数の減少を踏まえて五條市の学校でしたほうがよいこと

問 11 今後、さらに児童生徒数が少なくなることも考えられます。そこで、これからの五條市の学校をどのようにすることがよいと思いますか。
次の項目のア・イの中から1つに○を付けてください。

【図表 4-1 今後児童生徒数の減少を踏まえて五條市の学校でしたほうがよいこと】



今後、児童生徒数が減少することを踏まえて五條市の学校でどのようにすることがよいと思うかたずねたところ、「市全体として、学校の位置・通学区域・学校数を検討する」が8割台（83.3%）を占めている。

【図表 4-1-1 中学校区別 今後児童生徒数の減少を踏まえて五條市の学校でしたほうがよいこと】

(上段：人、下段：%)

	調査数	区域・現在の学校の位置・通学	も、複式学級の位置・通学	徒数に大きな差が生まれたとして	学校によって在籍する児童生徒	設置する通学区域・学校数の位	市全体として、学校の位置・通学区域・学校数の位	無回答
五條	57 100.0	7 12.3	47 82.5	3 5.3				
五條東	70 100.0	7 10.0	60 85.7	3 4.3				
野原	33 100.0	4 12.1	29 87.9	- -				
五條西	54 100.0	10 18.5	42 77.8	2 3.7				
西吉野	27 100.0	5 18.5	22 81.5	- -				

中学校区別にみると、いずれの校区も「市全体として、学校の位置・通学区域・学校数を検討する」が7～8割台を占めており、野原中学校区で9割弱（87.9%）と最も高い。

【図表 4-1-2 種別 今後児童生徒数の減少を踏まえて五條市の学校でしたほうがよいこと】

(上段：人、下段：%)

	調査数	区域・現在の学校の位置・通学	も、複式学級の位置・通学	徒数に大きな差が生まれたとして	学校によって在籍する児童生徒	設置する通学区域・学校数の位	市全体として、学校の位置・通学区域・学校数の位	無回答
小学校	143 100.0	13 9.1	124 86.7	6 4.2				
中学校	98 100.0	20 20.4	76 77.6	2 2.0				

勤務校種別にみると、「市全体として、学校の位置・通学区域・学校数を検討する」が中学校勤務で77.6%に対し、小学校勤務では86.7%と9.1ポイント高くなっている。

(2) 子どもに今まで以上に身に付けさせたい力 (自由記述)

問 12 五條市の学校や教育全般に関わり、担当している子どもたちが社会に出て行くことを考えた際に、今まで以上に子どもたちの身に付けさせたい力は何でしょうか。

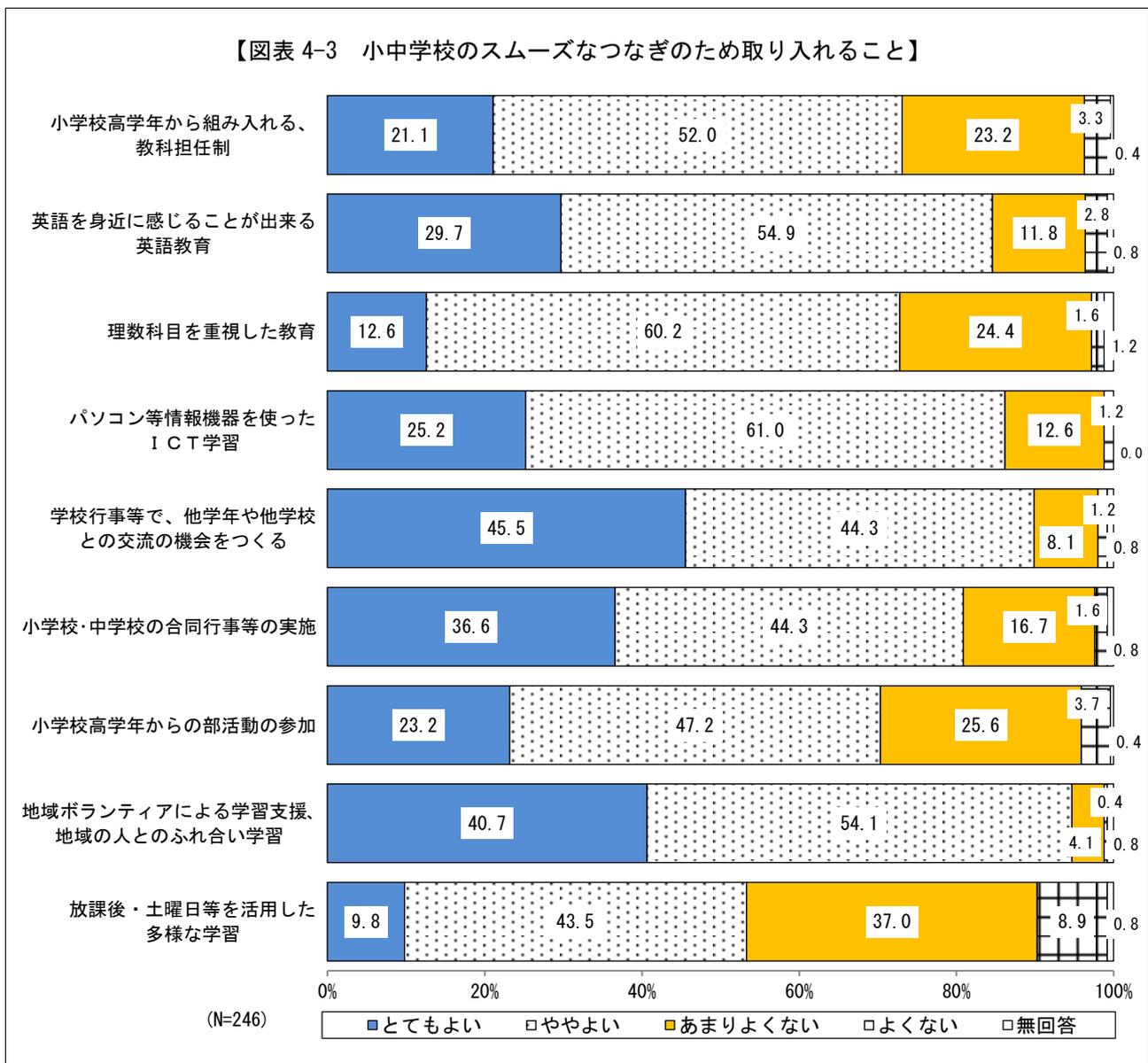
【図表 4-2 子どもに今まで以上に身に付けさせたい力 (まとめ)】

＜ 意見内容 (分類) ＞	＜ 件数 ＞
■ コミュニケーション能力、社交性	67 件
■ 社会性、道徳心、規範意識	53 件
■ 自己判断能力、問題解決能力	48 件
■ 忍耐力、精神力、諦めない心	35 件
■ 基礎学力・知識、応用力	31 件
■ 自分の考えをもつ力、自己表現能力	23 件
■ 行動力、自主性、主体性	23 件
■ 思いやりの心、相手の気持ちを考える理解力	21 件
■ 社会を生きる力、生活力、人間力	16 件
■ 協調性	15 件
■ 郷土愛	14 件
■ 適応能力、柔軟性、対応力	11 件
■ 感性、創造性、想像力、発想力	7 件
■ グローバルな視点、国際感覚、語学力	4 件
■ 基礎体力、運動能力	4 件
■ 社会に貢献するという意識・意欲	4 件
■ 自尊感情、自己肯定感	3 件
■ 責任感	3 件
■ 先を見通す力、将来設計	3 件
■ 向上心	2 件
■ 安全教育	2 件
■ 読む力、書く力	2 件
■ その他	12 件

(3) 小中学校のスムーズなつなぎのため取り入れること

問13 近年、「中1ギャップ」という、中学校入学後に不登校生徒の増加や学力の落ち込みなどの問題が指摘されています。そこで、小学校と中学校がスムーズなつなぎとなるために、次の項目を小学校の授業に積極的に取り入れることについて、どう思いますか。
それぞれに項目に対し、あなたの考えに近い欄に○を付けてください。

【図表 4-3 小中学校のスムーズなつなぎのため取り入れること】



小学校と中学校がスムーズなつなぎとなるために、小学校の授業に積極的に取り入れるべき主な9項目についてどう思うかたずねたところ、「肯定的な意見」の割合（「とてもよい」「ややよい」の計）が『地域ボランティアによる学習支援、地域の人とのふれ合い学習』で9割台（94.8%）と最も高く、次いで『学校行事等で、他学年や他学校との交流の機会をつくる』で89.8%、『パソコン等情報機器を使ったICT学習』で86.2%、『英語を身近に感じることが出来る英語教育』で84.6%となっている。一方、否定的な意見の割合（「あまりよくない」「よくない」の計）は『放課後・土曜日等を活用した多様な学習』で4割台（45.9%）と最も高い。

【図表 4-3-1 中学校区別 小中学校のスムーズなつなぎのため取り入れること「とてもよい」「ややよい」】

※各項目において「とてもよい」または「ややよい」と回答した割合について掲載している。

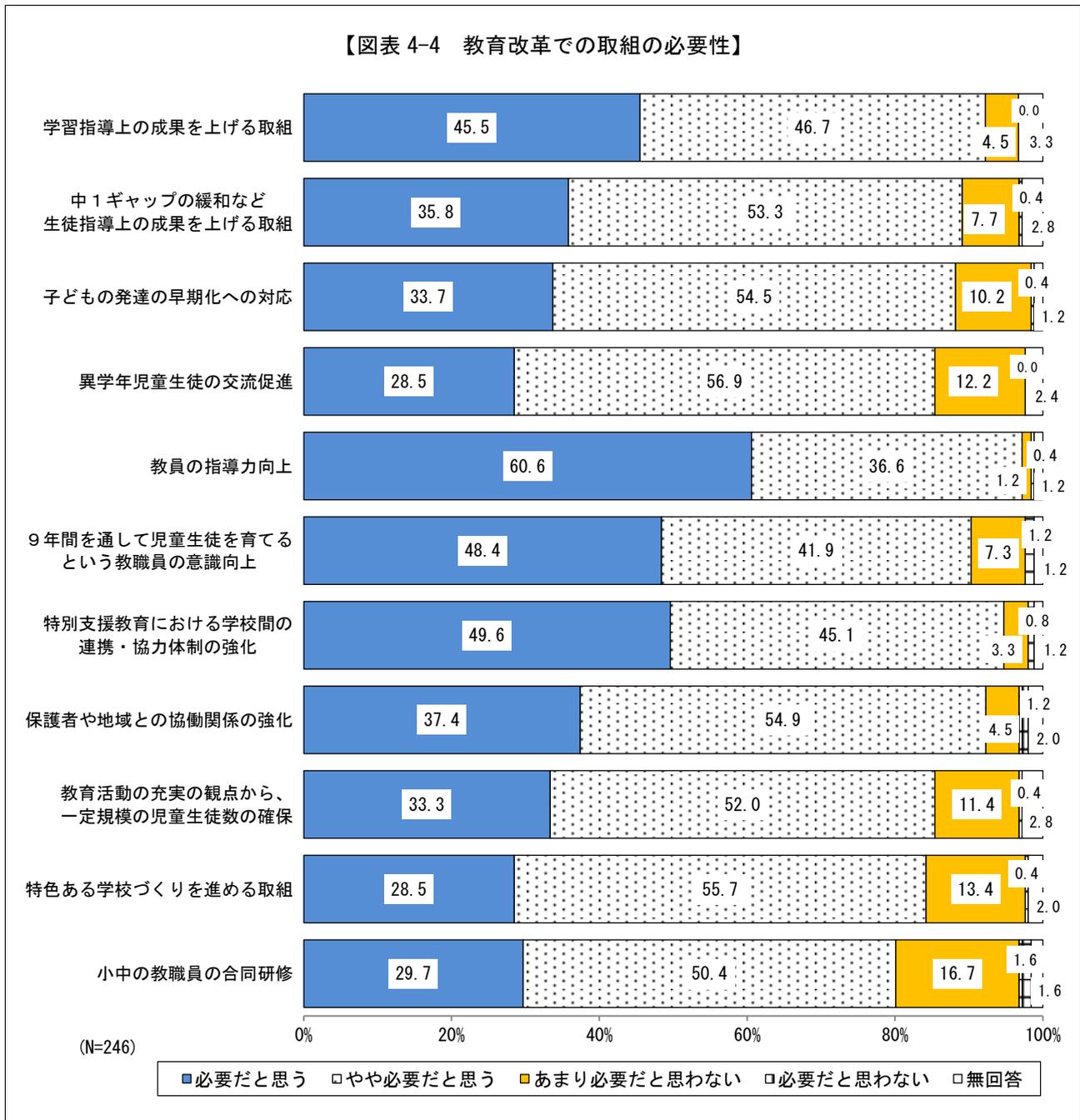
(上段：人、下段：%)

	調査数	小学校高学年から組み入れる、教科担任制	英語を身近に感じるこ とが出来る英語教育	理数科目を重視した教 育	使った I C T 学習機器を パソコン等情報機器を	学校行事等で、他学 年や他学校との交流の機 会をつくる	小学校・中学校の合同 行事等の実施	小学校高学年からの部 活動の参加	地域ボランティアによる 学習支援、地域のよ いふれ合い学習	放課後・土曜日等を活 用した多様な学習
五條	57 100.0	40 70.2	49 86.0	46 80.7	51 89.5	51 89.5	47 82.5	42 73.7	54 94.7	37 64.9
五條東	70 100.0	51 72.9	57 81.4	46 65.7	58 82.9	60 85.7	52 74.3	49 70.0	64 91.4	32 45.7
野原	33 100.0	25 75.8	26 78.8	21 63.6	26 78.8	29 87.9	28 84.8	21 63.6	30 90.9	15 45.5
五條西	54 100.0	41 75.9	48 88.9	42 77.8	49 90.7	50 92.6	45 83.3	35 64.8	53 98.1	26 48.1
西吉野	27 100.0	18 66.7	24 88.9	21 77.8	23 85.2	26 96.3	23 85.2	21 77.8	27 100.0	16 59.3

各項目における肯定的な意見の割合（「とてもよい」「ややよい」の計）について、中学校区別にみると、いずれの校区も『地域ボランティアによる学習支援、地域の人とのふれ合い学習』が9割以上と最も高く、次いで『学校行事等で、他学年や他学校との交流の機会をつくる』または『パソコン等情報機器を使った I C T 学習』が8～9割台となっている。

(4) 教育改革での取組の必要性

問 14 各小中学校においては、教育改革の中で様々な取組が必要だと考えられています、あなたは次の取組についてどのように思いますか。
あなたの考えに近い欄に○を付けてください。その他の取組についてはお書きください。



各小中学校における教育改革での取組の必要性として、主な11項目についてたずねたところ、「必要だと思う」が『教員の指導力向上』で約6割(60.6%)を占め最も高くなっている。これに続くのが、『特別支援教育における学校間の連携・協力体制の強化』で49.6%、『9年間を通して児童生徒を育てるという教職員の意識向上』で48.4%、『学習指導上の成果を上げる取組』で45.5%となっている。

【図表 4-4-1 中学校区別 教育改革での取組の必要性「必要だと思う」「やや必要だと思う」】

※各項目において「必要だと思う」または「やや必要だと思う」と回答した割合について掲載している。

(上段：人、下段：%)

	調査数	学習指導上の成果を上げる取組	中学生1ギヤツプの緩和を上げる取組	子どもの発達の早期化への対応	異学年児童生徒の交流促進	教員の指導力向上	9年間を通して児童生徒の意識向上	特別支援教育に協力する学校間の連携強化	関係者や地域との協働の強化	保護者の確保	生徒から一定規模の児童教育活動の充実の観点を確保	特色ある学校づくりを進める取組	小中の教職員の合同研修
五條	57 100.0	54 94.7	51 89.5	49 86.0	50 87.7	55 96.5	53 93.0	56 98.2	52 91.2	52 91.2	48 84.2	46 80.7	
五條東	70 100.0	64 91.4	62 88.6	61 87.1	59 84.3	67 95.7	60 85.7	67 95.7	66 94.3	57 81.4	61 87.1	55 78.6	
野原	33 100.0	29 87.9	31 93.9	27 81.8	28 84.8	33 100.0	31 93.9	28 84.8	28 84.8	24 72.7	21 63.6	24 72.7	
五條西	54 100.0	52 96.3	49 90.7	52 96.3	46 85.2	53 98.1	48 88.9	51 94.4	52 96.3	50 92.6	48 88.9	44 81.5	
西吉野	27 100.0	23 85.2	21 77.8	23 85.2	23 85.2	26 96.3	25 92.6	26 96.3	24 88.9	23 85.2	24 88.9	24 88.9	

各項目における必要という割合（「必要だと思う」「やや必要だと思う」の計）について、中学校区別にみると、いずれの校区も『教員の指導力向上』または『特別支援教育における学校間の連携・協力体制の強化』が9割以上で最も高くなっている。

(5) 教育改革に向けて行っている取組（自由記述）

問 15 各小中学校において、あなたは今、教育改革に向けて、どんな取組をしていますか。
下記にお書きください。

【図表 4-5 教育改革に向けて行っている取組（まとめ）】

< 意見内容（分類） >	< 件数 >
■ 授業内容の工夫・改善、研究	31 件
■ 小中学校間の連携、交流（出前授業、合同研修等）	31 件
■ 教員の指導力（授業力）向上のための研修等	26 件
■ 児童・生徒の思考力、判断力、表現力等の育成	15 件
■ 地域や保護者（家庭）との連携	15 件
■ 児童・生徒の基礎学力向上のための取組	13 件
■ 児童・生徒の社会性、規範意識等の向上	12 件
■ 特別支援教育の推進、学校間の連携	10 件
■ 特色ある学校づくり、学級経営	10 件
■ 児童・生徒の体力向上、部活動の推進	8 件
■ 小中の連続性を意識した取組（中1ギャップの緩和等）	8 件
■ 児童・生徒のコミュニケーション能力等の育成	7 件
■ 放課後学習の推進、家庭学習の習慣づけ	6 件
■ 読書活動の推進	5 件
■ 教職員間での連携、サポート	4 件
■ ふるさと教育の推進	4 件
■ 異学年との交流の機会の充実	3 件
■ その他	9 件

5 小中一貫教育について

(1) 小中一貫教育についての実態調査結果に対する意見（自由記述）

問 16 平成 27 年 2 月、文部科学省初等中等教育局から発行された「小中一貫教育についての実態調査の結果」では以下の参考資料が載っています。

あなたは、以下の分析結果についてどのように思われますか。下記の自由記述欄に意見をお書きください。

大きな成果が認められる	大きな課題が認められる
中学校への進学に不安を感じる児童が減少した	小中の教職員での打合せ時間の確保
いわゆる「中1ギャップ」が緩和された	小中合同の研修時間の確保
小中学校の教職員間で互いの良さを取り入れる意識が高まった	児童生徒間の交流を図る際の移動手段・移動時間の確保
小中学校の教職員間で協力して指導にあたる意識が高まった	教職員の負担感・多忙感の解消
小中学校で共通で実践する取組が増えた	

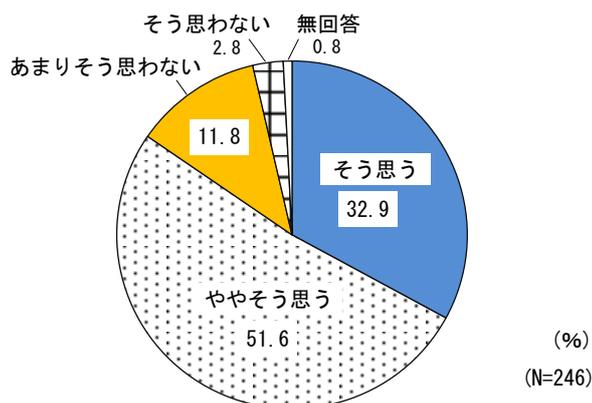
【図表 5-1 小中一貫教育についての実態調査結果に対する意見（まとめ）】

< 意見内容（分類） >	< 件数 >
■ 教職員間の打合せ時間の確保や移動等、負担感の解消が必要	64 件
■ 小中の教職員間での共通意識・共通理解が必要（ギャップの解消）	18 件
■ 小中一貫教育においては解消すべき様々な課題が出てくる	18 件
■ 中1ギャップ等の進学に対する不安の緩和につながる	13 件
■ 事前の十分な準備、計画が重要	10 件
■ 小中学校の連携（打合せや研修、交流の機会）が必須	10 件
■ 小中学校間をつなげるコーディネーターが必要	7 件
■ 小中一貫教育に向けた学校の規模、立地、形態等の検討が必要	7 件
■ 小中一貫教育に期待する、児童・生徒のプラスになる	7 件
■ その他	5 件
■ 小中一貫教育によるマイナスの面もある、必要性を感じない	23 件

(2) 小中一貫カリキュラムの検討及び作成の必要性に関する考え

問 17 9年間の教育課程・指導方法の系統性・連続性の確保のためには、小中一貫カリキュラム（教育課程）の検討及び作成することが必要だと言われています。この検討及び作成について、あなたの考えに近い欄に○を付けてください。

【図表 5-2 小中一貫カリキュラムの検討及び作成の必要性に関する考え】



小中一貫カリキュラムの検討及び作成の必要性をたずねたところ、「ややそう思う」が過半数（51.6%）を占めており、次いで高い「そう思う」（32.9%）を合わせると、検討及び作成が必要と考える人の割合は全体の8割台（84.5%）となっている。

【図表 5-2-1 中学校区別 小中一貫カリキュラムの検討及び作成の必要性に関する考え】

(上段：人、下段：%)

中学校区	調査数	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答
五條	57	16	34	5	1	1
	100.0	28.1	59.6	8.8	1.8	1.8
五條東	70	25	31	10	4	-
	100.0	35.7	44.3	14.3	5.7	-
野原	33	10	19	4	-	-
	100.0	30.3	57.6	12.1	-	-
五條西	54	17	27	7	2	1
	100.0	31.5	50.0	13.0	3.7	1.9
西吉野	27	8	16	3	-	-
	100.0	29.6	59.3	11.1	-	-

中学校区別にみると、検討及び作成が必要と考える人の割合（「そう思う」「ややそう思う」の計）が、いずれの校区も8割台を占めており、特に、西吉野中学校区（88.9%）、野原中学校区（87.9%）、五條中学校区（87.7%）で9割弱と高い。

【図表 5-2-2 種別 小中一貫カリキュラムの検討及び作成の必要性に関する考え】

(上段：人、下段：%)

	調査数	そう思う	ややそう思う	あまり ない そう 思わ ない	そう 思わ ない	無回 答
小学校	143	51	77	12	1	2
	100.0	35.7	53.8	8.4	0.7	1.4
中学校	98	25	50	17	6	-
	100.0	25.5	51.0	17.3	6.1	-

勤務校種別にみると、検討及び作成が必要と考える人の割合（「そう思う」「ややそう思う」の計）が、中学校勤務では 76.5%に対し、小学校勤務では 89.5%と、13.0 ポイント高くなっている。

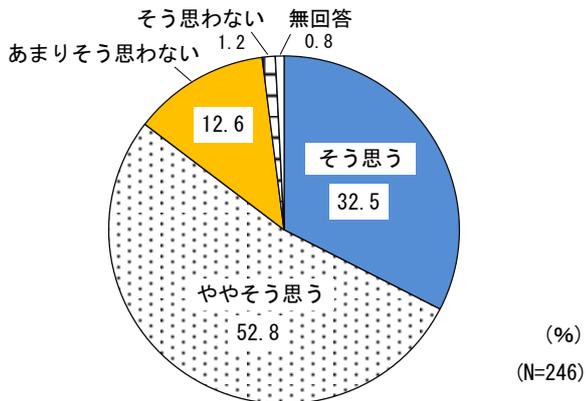
(3) 小・中学校間の系統性・連続性確保のため、校種を超えて一緒に検討することの必要性

問 18 学校教育の知・徳・体の系統性・連続性を確保するために「小学校 1 年生から継続的に育てなければならない学び」の必要性が言われています。そのためには、義務教育全体を学校教育全体で行って行くための発想や組織づくりが求められ、校種を超えての 9 年間の教育課程・指導方法の系統性・連続性や校務分掌を含めた小中での部会の設置、生徒指導部会、年間計画等も一緒に検討することが必要だと言われています。

(小中の合同会議設定や余裕時間の確保や負担軽減等の取組は今後の課題として)

このことについて、あなたの考えに近い欄に○を付けてください。

【図表 5-3 小・中学校間の系統性・連続性確保のため、校種を超えて一緒に検討することの必要性】



学校教育の知・徳・体の系統性・連続性を確保するために、校種を超えて一緒に検討することの必要性をたずねたところ、「ややそう思う」が過半数（52.8%）を占めており、次いで高い「そう思う」（32.5%）を合わせると、一緒に検討することが必要と考える人の割合は全体の 8 割台（85.3%）となっている。

【図表 5-3-1 中学校区別 小・中学校間の系統性・連続性確保のため、校種を超えて一緒に検討することの必要性】

(上段：人、下段：%)

	調査数	そう思う	ややそう思う	なあまり いりそう 思わ	そう 思わ ない	無 回 答
五條	57 100.0	18 31.6	32 56.1	5 8.8	1 1.8	1 1.8
五條東	70 100.0	22 31.4	33 47.1	14 20.0	1 1.4	- -
野原	33 100.0	8 24.2	19 57.6	6 18.2	- -	- -
五條西	54 100.0	18 33.3	29 53.7	5 9.3	1 1.9	1 1.9
西吉野	27 100.0	10 37.0	16 59.3	1 3.7	- -	- -

中学校別にみると、一緒に検討することが必要と考える人の割合（「そう思う」「ややそう思う」の計）が、西吉野中学校区で9割台(96.3%)と最も高く、次いで五條中学校区で87.7%、五條西中学校区で87.0%となっている。

【図表 5-3-2 種別 小・中学校間の系統性・連続性確保のため、校種を超えて一緒に検討することの必要性】

(上段：人、下段：%)

	調査数	そう思う	ややそう思う	なあまり いりそう 思わ	そう 思わ ない	無 回 答
小学校	143 100.0	51 35.7	76 53.1	14 9.8	- -	2 1.4
中学校	98 100.0	25 25.5	53 54.1	17 17.3	3 3.1	- -

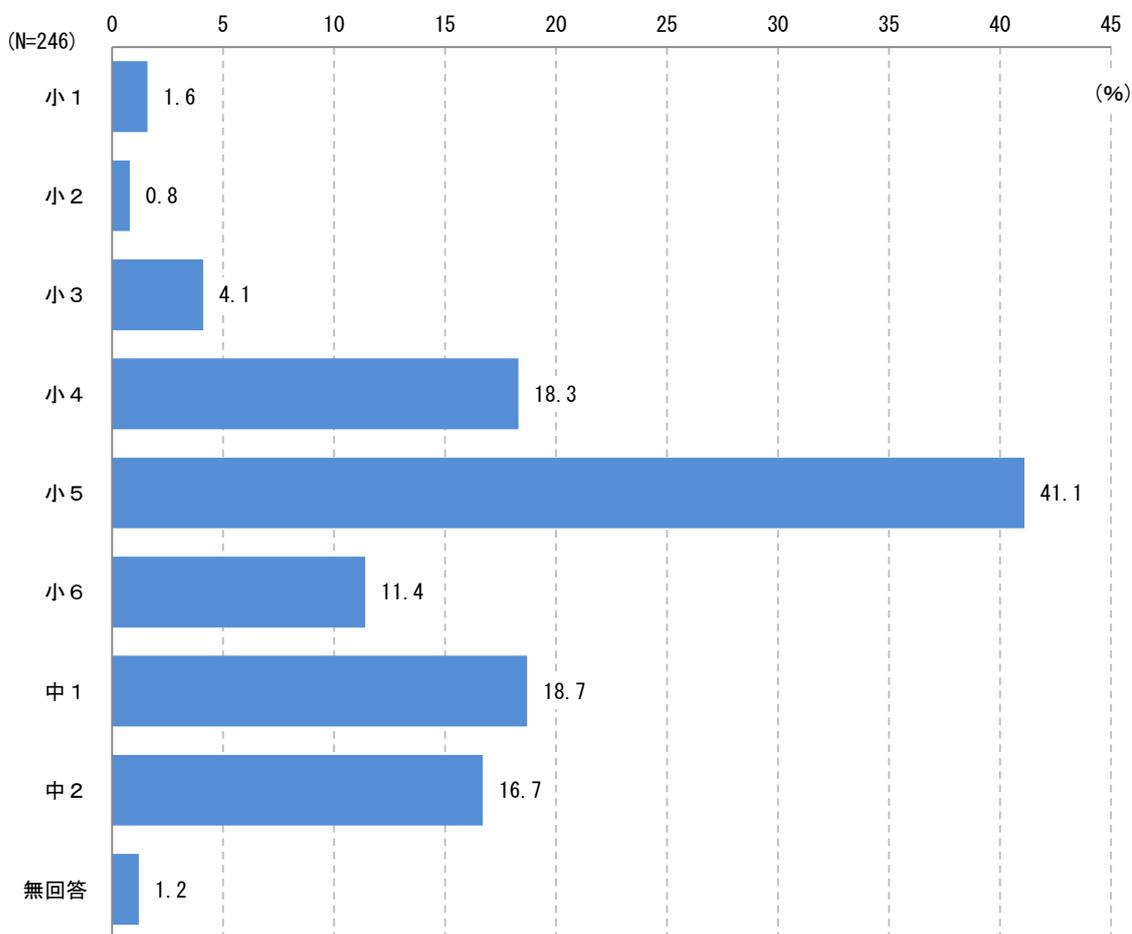
勤務校種別にみると、一緒に検討することが必要と考える人の割合（「そう思う」「ややそう思う」の計）が、中学校勤務で79.6%に対し、小学校勤務では88.8%と、9.2ポイント高くなっている。

(4) 子どもたちが大きく変化していると思う学年

問 19 小中一貫教育に取り組む「研究開発学校」の実践では、「中1ギャップ」(中学校の学びや生活に不安を感じて学校生活になじめなくなってしまう。厳しい場合は不登校になってしまう。問題行動が増加してしまう。規範意識の低下が顕著になってしまう。学力の低下が顕著になってしまう。)への対応から小中一貫教育に取り組む姿が見られますが、あなたは「どのあたりの学年で子どもたちが大きく変化している」と感じますか。このことについて、あなたが子どもたちが大きく変化していると思う学年に○を付けてください。

【図表 5-4 子どもたちが大きく変化していると思う学年】

※この設問は複数回答扱いとして集計している。



子どもたちが大きく変化していると思う学年としては、「小5」が4割強(41.1%)と最も高くなっている。これに続くのが、「中1」で18.7%、「小4」で18.3%、「中2」で16.7%となっている。

【図表 5-4-1 種別 子どもたちが大きく変化していると思う学年】

(上段：人、下段：%)

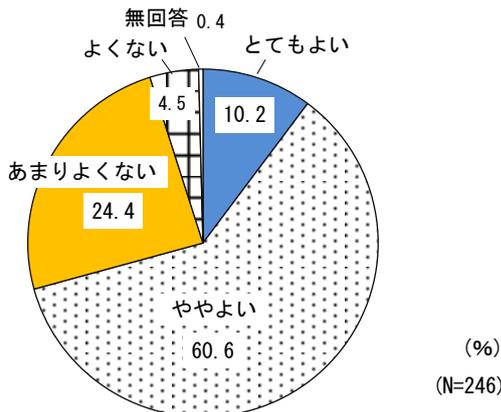
	調査数	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	無回答
小学校	143	4	1	5	26	69	24	23	10	2
	100.0	2.8	0.7	3.5	18.2	48.3	16.8	16.1	7.0	1.4
中学校	98	-	1	5	18	29	3	23	31	1
	100.0	-	1.0	5.1	18.4	29.6	3.1	23.5	31.6	1.0

勤務校種別にみると、小学校勤務では「小5」が48.3%、中学校勤務では「中2」が31.6%と、それぞれ最も高くなっている。

(5) 五條市の教育体制に小中一貫教育を導入することの是非

問 20 小中一貫教育についてはその導入・推進に向けて、様々な検討事項（校舎の状況や通学区割り・推進のねらいや方針等・教育課程の編成等・教科担任制や乗り入れ授業・推進体制・学校運営協議会の導入他）が考えられます。
 そこで、未来の子どもたちのために、五條市の教育体制として「小中一貫教育」を導入することの是非について、あなたの考えに近い欄に○を付けてください。

【図表 5-5 五條市の教育体制に小中一貫教育を導入することの是非】



五條市の教育体制として“小中一貫教育”を導入することの是非をたずねたところ、「ややよい」が約6割（60.6%）を占めており、「とてもよい」（10.2%）を合わせると、導入に肯定的な意見の人の割合は全体の約7割（70.8%）となっている。

【図表 5-5-1 中学校区別 五條市の教育体制に小中一貫教育を導入することの是非】

(上段：人、下段：%)

中学校区	調査数	とてもよい	ややよい	あまりよくない	よくない	無回答
五條	57	9	35	11	2	-
	100.0	15.8	61.4	19.3	3.5	-
五條東	70	4	37	23	6	-
	100.0	5.7	52.9	32.9	8.6	-
野原	33	2	25	6	-	-
	100.0	6.1	75.8	18.2	-	-
五條西	54	7	29	16	1	1
	100.0	13.0	53.7	29.6	1.9	1.9
西吉野	27	2	20	3	2	-
	100.0	7.4	74.1	11.1	7.4	-

中学校区別にみると、導入に肯定的な意見の人の割合（「とてもよい」「ややよい」の計）が、野原中学校区で 81.9%、西吉野中学校区で 81.5%、五條中学校区で 77.2%と、それぞれ8割前後を占めている。

【図表 5-5-2 種別 五條市の教育体制に小中一貫教育を導入することの是非】

(上段：人、下段：%)

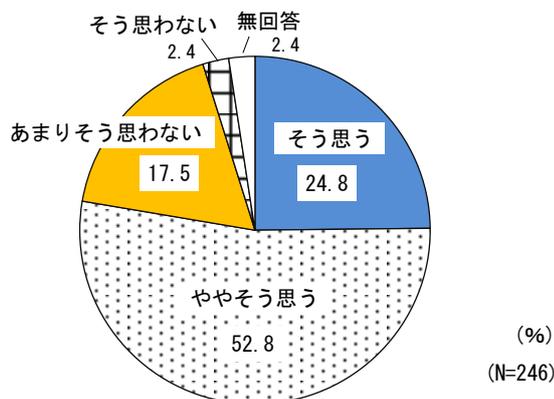
	調査数	とてもよい	ややよい	あまりよくない	よくない	無回答
小学校	143	18	94	27	3	1
	100.0	12.6	65.7	18.9	2.1	0.7
中学校	98	6	52	32	8	-
	100.0	6.1	53.1	32.7	8.2	-

勤務校種別にみると、導入に肯定的な意見の人の割合（「とてもよい」「ややよい」の計）が、中学校勤務で59.2%に対し、小学校勤務では78.3%と、19.1ポイント高くなっている。

(6) 五條市で小中一貫教育を導入することへの不安有無

問 21 五條市で、近い将来に小中一貫教育を進めていくとした場合に、心配や不安なことはありますか。
あなたの考えに近い欄に○を付けてください。それは、どのような不安ですか。

【図表 5-6 五條市で小中一貫教育を導入することへの不安有無】



五條市で小中一貫教育を進めていくとした場合の心配や不安の有無をたずねたところ、「ややそう思う」が5割強（52.8%）と最も高く、次いで高い「そう思う」（24.8%）を合わせると、心配や不安があるという人の割合は全体の8割弱（77.6%）を占める。

【図表 5-6-1 中学校区別 五條市で小中一貫教育を導入することへの不安有無】

(上段：人、下段：%)

	調査数	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答
五條	57 100.0	6 10.5	34 59.6	10 17.5	4 7.0	3 5.3
五條東	70 100.0	22 31.4	38 54.3	7 10.0	1 1.4	2 2.9
野原	33 100.0	6 18.2	21 63.6	6 18.2	-	-
五條西	54 100.0	18 33.3	23 42.6	13 24.1	-	-
西吉野	27 100.0	8 29.6	11 40.7	6 22.2	1 3.7	1 3.7

中学校区別にみると、心配や不安があるという人の割合（「そう思う」「ややそう思う」の計）はいずれの校区も7～8割台を占めており、特に、五條東中学校区で85.7%と最も高い。

【図表 5-6-2 種別 五條市で小中一貫教育を導入することへの不安有無】

(上段：人、下段：%)

	調査数	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答
小学校	143 100.0	33 23.1	77 53.8	26 18.2	3 2.1	4 2.8
中学校	98 100.0	27 27.6	50 51.0	16 16.3	3 3.1	2 2.0

勤務校種別にみると、心配や不安があるという人の割合（「そう思う」「ややそう思う」の計）は、中学校勤務で78.6%、小学校勤務で76.9%と、ともに7割台を占めている。

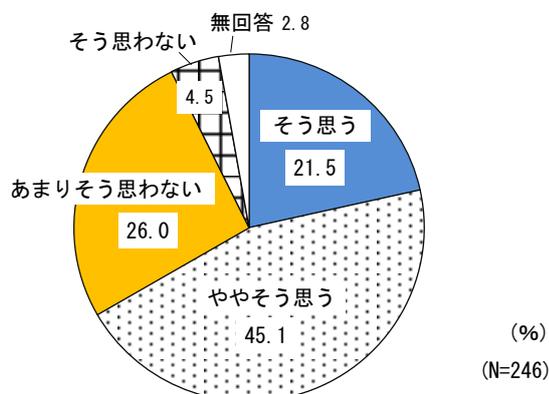
【図表 5-6-3 五條市で小中一貫教育を導入することへの不安内容（まとめ）】

＜ 意見内容（分類） ＞	＜ 件数 ＞
■ 小中学校間の連携方法、時間の確保や移動等の負担感	50 件
■ 校区の再編、学校の規模・立地・形態等の問題	34 件
■ 小中学校の教職員の共通意識・相互理解	23 件
■ 成果の上がる教育となるかの不安、事前の準備不足等	15 件
■ 児童・生徒側の環境の変化による影響	12 件
■ 学校生活のマンネリ化、人間関係の固定化による影響	9 件
■ 通学距離・通学方法、安全確保等	5 件
■ 一貫したカリキュラム（教育課程）の編成等	5 件
■ 必要性を感じない、デメリットのほうが大きい	4 件
■ 児童・生徒間の問題、トラブル（年齢差による影響）	3 件
■ 小中一貫教育に関する教職員自身の理解不足	3 件
■ コーディネーターやリーダーシップをとる人の必要性	2 件
■ その他	6 件

(7) 五條市で校区の再編を行った場合の不安有無

問 22 五條市で、近い将来に小中一貫教育を進めていくとした場合に、学校適正規模を考えて校区の再編なども行った場合に、不安なことはありますか。
あなたの考えに近い欄に○を付けてください。

【図表 5-7 五條市で校区の再編を行った場合の不安有無】



五條市で学校適正規模を考えて校区の再編などを行った場合の不安の有無をたずねたところ、「ややそう思う」が4割台（45.1%）と最も高く、「そう思う」（21.5%）を合わせると、不安があるという人の割合は6割台（66.6%）を占める。

【図表 5-7-1 中学校区別 五條市で校区の再編を行った場合の不安有無】

(上段：人、下段：%)

	調査数	そう思う	ややそう思う	ないあまりそう思わない	そう思わない	無回答
五條	57 100.0	10 17.5	25 43.9	18 31.6	3 5.3	1 1.8
五條東	70 100.0	18 25.7	32 45.7	13 18.6	2 2.9	5 7.1
野原	33 100.0	5 15.2	18 54.5	8 24.2	2 6.1	- -
五條西	54 100.0	12 22.2	21 38.9	20 37.0	1 1.9	- -
西吉野	27 100.0	7 25.9	12 44.4	4 14.8	3 11.1	1 3.7

中学校区別にみると、不安があるという人の割合（「そう思う」「ややそう思う」の計）が、五條東中学校区で 71.4%、西吉野中学校区で 70.3%、野原中学校区で 69.7%と、いずれも 7 割前後を占め高くなっている。

【図表 5-7-2 五條市で校区の再編を行った場合の不安内容（まとめ）】

< 意見内容（分類） >	< 件数 >
■ 通学距離・通学方法等の移動の問題	56 件
■ 地域住民の考え方や地域性の違い、地域との連携の希薄化	23 件
■ 校区再編に関する保護者や地域等の理解	21 件
■ 登下校時の児童・生徒の安全確保	11 件
■ 児童・生徒側の環境の変化による影響	11 件
■ 再編に向けた学校づくりの課題（教職員の配置や学校設備等）	10 件
■ 校区編成の方法・基準	8 件
■ 保護者（家庭）同士のつながりの希薄化	6 件
■ 教職員側の不安や不満等	5 件
■ その他	5 件

(8) 五條市で小中一貫教育を進めていく場合の問題点 (自由記述)

問 23 五條市で、近い将来に小中一貫教育を進めていくとした場合に、どんなことが問題になると思いますか。
あなたの考えを下記欄にお書きください。

【図表 5-8 五條市で小中一貫教育を進めていく場合の問題点 (まとめ)】

＜ 意見内容 (分類) ＞	＜ 件数 ＞
■ 学校再編における課題 (校区編成や地域性の違い等)	36 件
■ 小中学校間 (教職員間) の連携や時間の確保	28 件
■ 保護者や地域等への説明、理解	21 件
■ 通学距離・通学方法等の移動の問題	19 件
■ 小中学校の教職員の共通意識・共通理解	18 件
■ 一貫したカリキュラム (教育課程) の編成	15 件
■ 教職員の配置や職務内容、教員免許等の問題	11 件
■ 教職員側の不安や混乱、負担増の解消	8 件
■ 学校施設等の整備・充実の必要性	7 件
■ 児童・生徒側の環境の変化による影響	7 件
■ 事前の十分な準備や計画、移行期間の確保	6 件
■ 児童・生徒の問題行動、生徒指導等への対応	6 件
■ 学校生活のマナー化、人間関係の固定化による影響	5 件
■ 発達年齢に合わせた児童・生徒への対応、接し方	4 件
■ 児童・生徒間の問題、トラブル	2 件
■ その他	10 件

(9) 五條市で小中一貫教育を進めていく場合に必要取組 (自由記述)

問 24 五條市で、近い将来に小中一貫教育を進めていくとした場合に、事前にどんな取組が必要だと思いますか。また、先生なら事前にどうしますか。あなたの考えを下記欄にお書きください。

【図表 5-9 五條市で小中一貫教育を進めていく場合に必要取組 (まとめ)】

< 意見内容 (分類) >	< 件数 >
■ 小中学校間での教職員や児童・生徒の交流の機会	42 件
■ 教職員同士の相互理解・共通理解、話し合いの機会	31 件
■ 保護者や地域等への説明、理解	25 件
■ 小中学校合同での授業や行事等への参加	16 件
■ 教職員向けの説明、研修の機会	15 件
■ 小中学校間での連携向上、教職員同士の関係づくり	14 件
■ 一貫したカリキュラム (教育課程) の編成	12 件
■ 事前の十分な準備期間 (計画期間) の確保	8 件
■ 小中学校間での情報交換・情報共有	7 件
■ 先進校の視察、先進事例の収集等	6 件
■ 児童・生徒への働きかけ	4 件
■ 特色ある学校づくり	3 件
■ その他	7 件

(10) 小・中学校で連携して教科指導を行う場合のアイデア（自由記述）

問 25 小・中学校で連携して教科指導を行うとしたら、どのようなことができると思いますか。小中兼務発令が出されたと想定して、あなたのアイデアをお書きください。

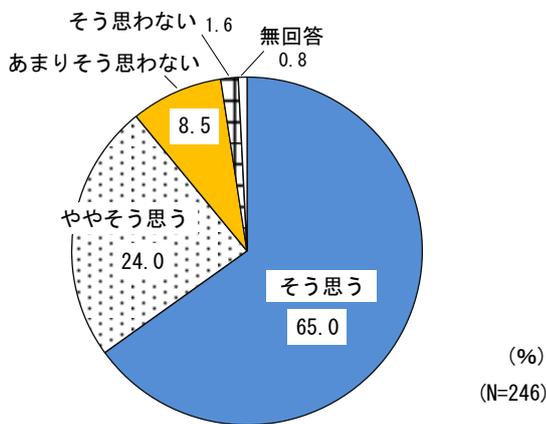
【図表 5-10 小・中学校で連携して教科指導を行う場合のアイデア（まとめ）】

< 意見内容（分類） >	< 件数 >
■ 専科教育における校種をこえての指導	32 件
■ 小学校での専門性を生かした授業の実施、教科担任制の導入	27 件
■ 小中相互の出前授業や教職員間での学習内容の共有	20 件
■ 一貫したカリキュラム（教育課程）の編成	20 件
■ ティーム・ティーチング、複数担任制の導入等	18 件
■ 小中学生合同での授業や活動、行事等	18 件
■ 中学生による小学生（上級生による下級生）への学習指導	11 件
■ 中学校の専門的な教材・設備を利用した小学生の授業・実験等の実施	7 件
■ 基礎学力向上	6 件
■ 相互授業参観、学校見学による交流	5 件
■ 中学生の小学校で習った内容の復習や小学校の授業での中学レベルの問題の取り入れ等における連携	4 件
■ 特別支援学級における連携	3 件
■ 基礎体力向上	3 件
■ 児童・生徒への指導や保護者対応における連携	2 件
■ クラブ活動での連携	2 件
■ その他	8 件

(11) 小中連携や小中一貫教育について保護者や市民への啓発の必要性

問 26 小中連携や小中一貫教育について、保護者や市民に啓発する必要があると思いますか。

【図表 5-11 小中連携や小中一貫教育について保護者や市民への啓発の必要性】



小中連携や小中一貫教育について、保護者や市民に啓発する必要があるかたずねたところ、「そう思う」が6割台（65.0%）を占めており、次いで高い「ややそう思う」（24.0%）を合わせると、啓発が必要と考える人の割合は約9割（89.0%）となっている。

【図表 5-11-1 中学校区別 小中連携や小中一貫教育について保護者や市民への啓発の必要性】

(上段：人、下段：%)

中学校区	調査数	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答
五條	57	40	14	2	-	1
	100.0	70.2	24.6	3.5	-	1.8
五條東	70	47	12	7	3	1
	100.0	67.1	17.1	10.0	4.3	1.4
野原	33	20	11	2	-	-
	100.0	60.6	33.3	6.1	-	-
五條西	54	29	17	7	1	-
	100.0	53.7	31.5	13.0	1.9	-
西吉野	27	19	5	3	-	-
	100.0	70.4	18.5	11.1	-	-

中学校区別にみると、啓発が必要と考える人の割合（「そう思う」「ややそう思う」の計）が、五條中学校区で94.8%、野原中学校区で93.9%と、ともに9割台を占め高くなっている。

【図表 5-11-2 種別 小中連携や小中一貫教育について保護者や市民への啓発の必要性】

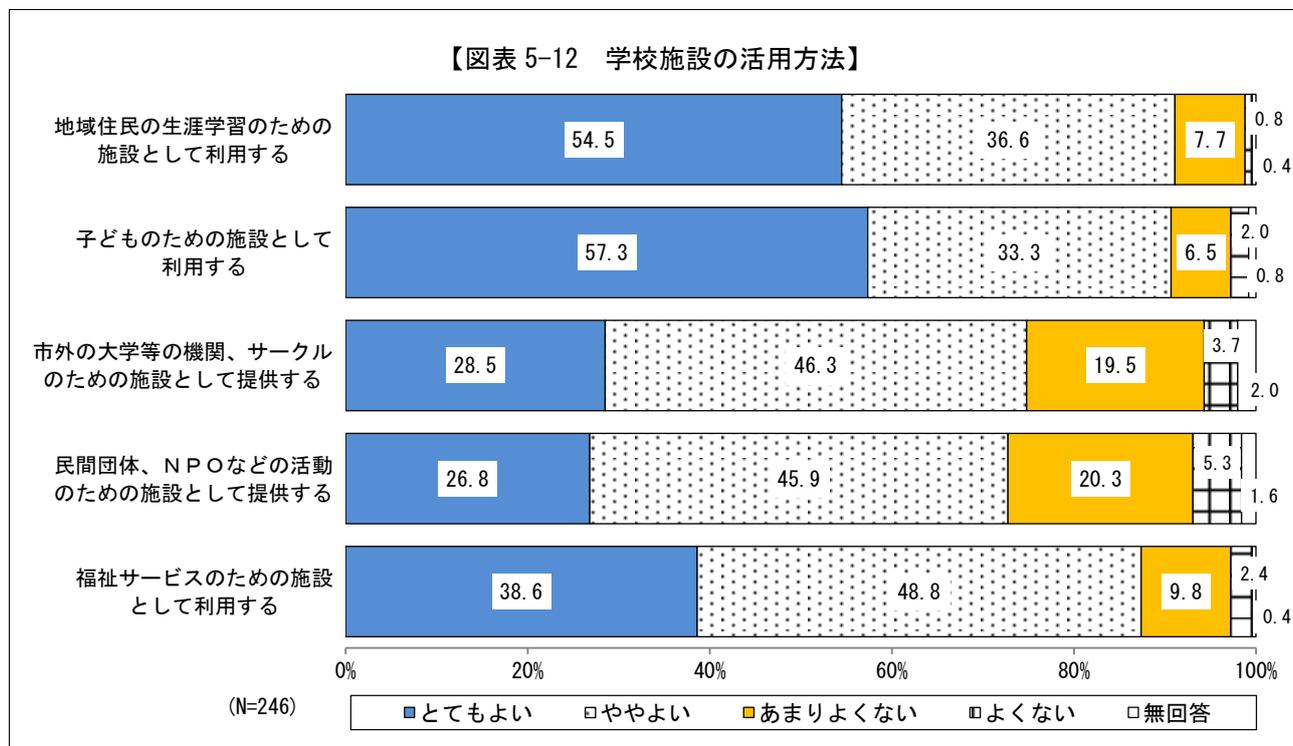
(上段：人、下段：%)

	調査数	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答
小学校	143	99	30	11	2	1
	100.0	69.2	21.0	7.7	1.4	0.7
中学校	98	56	29	10	2	1
	100.0	57.1	29.6	10.2	2.0	1.0

勤務校種別にみると、啓発が必要と考える人の割合（「そう思う」「ややそう思う」の計）が、中学校勤務で86.7%に対し、小学校勤務では90.2%と、3.5ポイント高くなっている。

(12) 学校施設の活用方法

問 27 これから、空き教室や空き校舎が出てくることも考えられます。その場合、施設をどのように活用すればよいと思いますか。それぞれの項目に対し、あなたの考えに近い欄に○を付けてください。



空き教室や空き校舎などの学校施設の活用方法として、主な5項目に対する考えをたずねたところ、「とてもよい」が『子どものための施設として利用する』で57.3%、『地域住民の生涯学習のための施設として利用する』で54.5%と、ともに過半数を占めており、「ややよい」を合わせた肯定的な意見の割合では9割台となっている。

【図表 5-12-1 中学校区 学校施設の活用方法「とてもよい」「ややよい」】

※各項目において「とてもよい」または「ややよい」と回答した割合について掲載している。

(上段：人、下段：%)

	調査数	すた地 るめ域 の住 民の 施設 とし て生 涯学 習の 利用 の	し子 てど も 利用 する ため の 施設 と	とサ市 して外 提クル 供の大 す学等 るため の機 関、 施設	し活民 て動間 提動団 供の体 すた るめ のN のP 施設 など	施福 設社 とサ して 利用 する ため の
五條	57 100.0	55 96.5	53 93.0	40 70.2	37 64.9	51 89.5
五條東	70 100.0	63 90.0	63 90.0	51 72.9	52 74.3	62 88.6
野原	33 100.0	30 90.9	32 97.0	27 81.8	24 72.7	29 87.9
五條西	54 100.0	47 87.0	46 85.2	39 72.2	41 75.9	46 85.2
西吉野	27 100.0	24 88.9	24 88.9	23 85.2	21 77.8	23 85.2

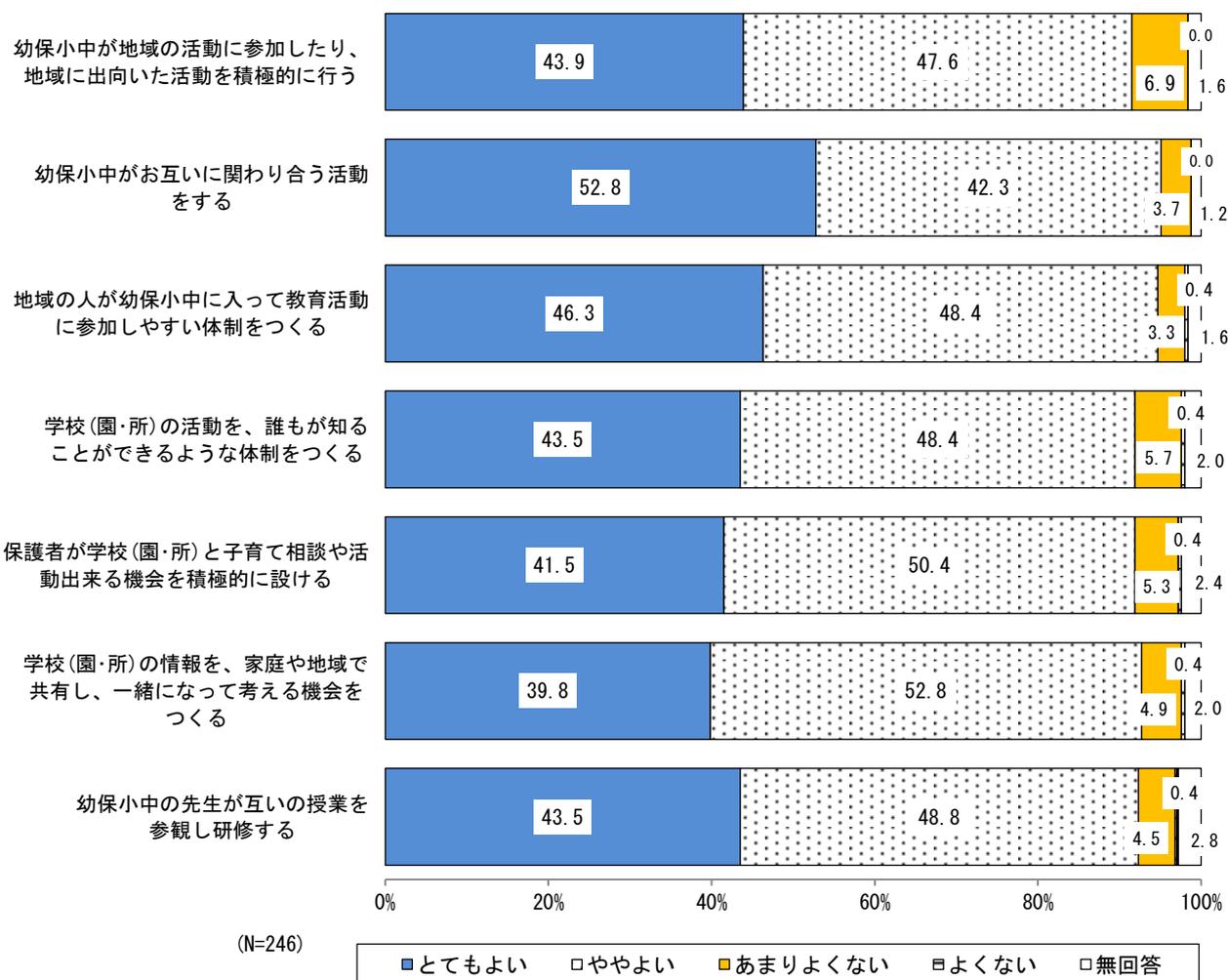
各項目における肯定的な意見の割合（「とてもよい」「ややよい」の計）について、中学校区別にみると、いずれの校区も『地域住民の生涯学習のための施設として利用する』または『子どものための施設として利用する』が8～9割台と最も高く、特に、『地域住民の生涯学習のための施設として利用する』が五條中学校区で96.5%、『子どものための施設として利用する』が野原中学校区で97.0%と高い。

6 教育内容や教育体制について

(1) 幼保小中と地域が連携した教育のための取組についての考え

問 28 五條市では、幼稚園・保育所（園）・小学校・中学校（以下、幼保小中といいます）と、地域が連携して教育を進めることは大切だと考えています。次の取り組みについて、それぞれの項目に対し、あなたの考えに近い欄に○を付けてください。

【図表 6-1 幼保小中と地域が連携した教育のための取組についての考え】



幼保小中と地域が連携して教育を進めるための取組として、主な7項目に対する考えをたずねたところ、肯定的な意見の割合（「とてもよい」「ややよい」の計）はいずれも9割台みられ、特に「とてもよい」が『幼保小中がお互いに関わり合う活動をする』で過半数（52.8%）を占め最も高くなっている。

【図表 6-1-1 中学校区別 幼保小中と地域が連携した教育のための取組についての考え「とてもよい」】

※各項目において「とてもよい」と回答した割合について掲載している。

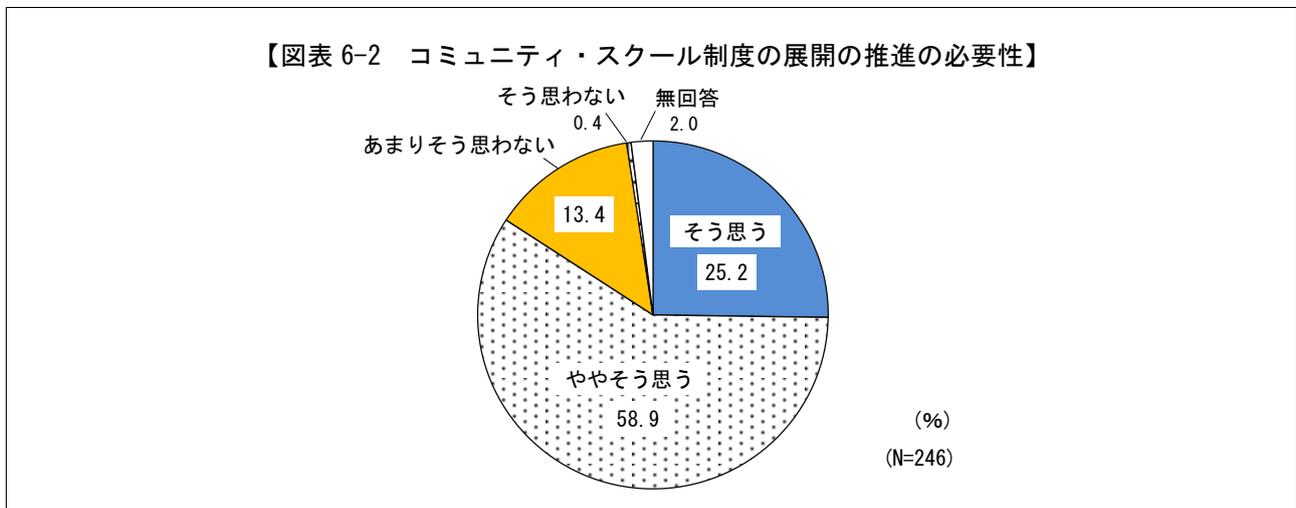
(上段：人、下段：%)

	調査数	いた参加した活動をし、積極的に活動を行う	り幼保小中がお互いに関わり合う活動をする	や入地域の人が幼保小中に入りやすい体制をつくる	き、誰もが知る体制をつくる	を、学校(園・所)の活動を	ると保護者が学校(園・所)と積極的に活動する機会を積極的に設ける	機会をつくる	し、一緒に考えて共有する	学校(園・所)の情報を共有する	授業を参観し研修する
五條	57 100.0	27 47.4	33 57.9	35 61.4	30 52.6	33 57.9	30 52.6	32 56.1			
五條東	70 100.0	30 42.9	34 48.6	26 37.1	25 35.7	20 28.6	22 31.4	23 32.9			
野原	33 100.0	12 36.4	19 57.6	16 48.5	11 33.3	15 45.5	13 39.4	15 45.5			
五條西	54 100.0	23 42.6	26 48.1	21 38.9	26 48.1	19 35.2	21 38.9	18 33.3			
西吉野	27 100.0	12 44.4	16 59.3	12 44.4	11 40.7	12 44.4	9 33.3	15 55.6			

各項目における「とてもよい」の割合について、中学校区別にみると、概ねいずれの校区も『幼保小中がお互いに関わり合う活動をする』が4～5割台と最も高くなっている。一方、五條中学校区では、『地域の人が幼保小中に入って教育活動に参加しやすい体制をつくる』が6割強(61.4%)と最も高い。

(2) コミュニティ・スクール制度の展開の推進の必要性

問 29 コミュニティ・スクールを基盤とする様々な教育活動の展開を推進することについて、あなたは
 どのように思いますか。あなたの考えに近い欄に○を付けてください。



コミュニティ・スクールを基盤とする様々な教育活動の展開を推進することに対する考えをたずねたところ、「ややそう思う」が6割弱（58.9%）を占めており、次いで高い「そう思う」（25.2%）を合わせると、制度の展開の推進に肯定的な意見の人の割合は8割台（84.1%）となっている。

【図表 6-2-1 中学校区別 コミュニティ・スクール制度の展開の推進の必要性】

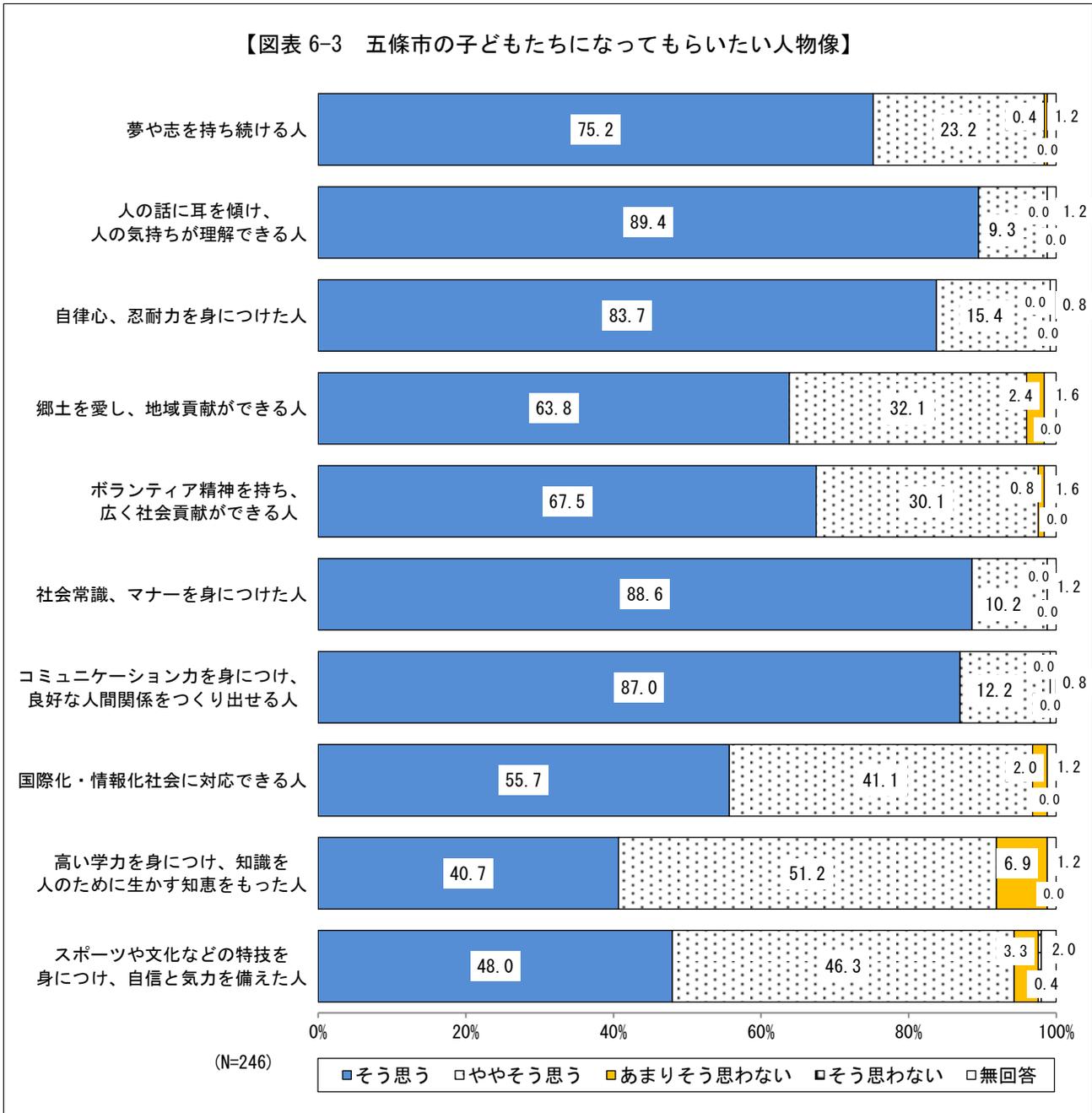
(上段：人、下段：%)

	調査数	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答
五條	57	24	24	7	1	1
	100.0	42.1	42.1	12.3	1.8	1.8
五條東	70	13	45	11	-	1
	100.0	18.6	64.3	15.7	-	1.4
野原	33	7	19	7	-	-
	100.0	21.2	57.6	21.2	-	-
五條西	54	9	38	6	-	1
	100.0	16.7	70.4	11.1	-	1.9
西吉野	27	7	17	2	-	1
	100.0	25.9	63.0	7.4	-	3.7

中学校区別にみると、推進に肯定的な意見の人の割合（「そう思う」「ややそう思う」の計）はいずれの校区も7～8割台を占めており、特に、五條中学校では「そう思う」が4割強（42.1%）と高くなっている。

(3) 五條市の子どもたちになってもらいたい人物像

問 30 五條市の子どもたちに、どんな人になってもらいたいですか。
 それぞれの項目に対し、あなたの考えに近い欄に○を付けてください。



五條市の子どもたちになってもらいたい人物像として、主な10項目についてたずねたところ、「そう思う」が、『人の話に耳を傾け、人の気持ちが理解できる人』で89.4%と最も高く、次いで『社会常識、マナーを身につけた人』で88.6%、『コミュニケーション力を身につけ、良好な人間関係をつくり出せる人』で87.0%、『自律心、忍耐力を身につけた人』で83.7%となっている。

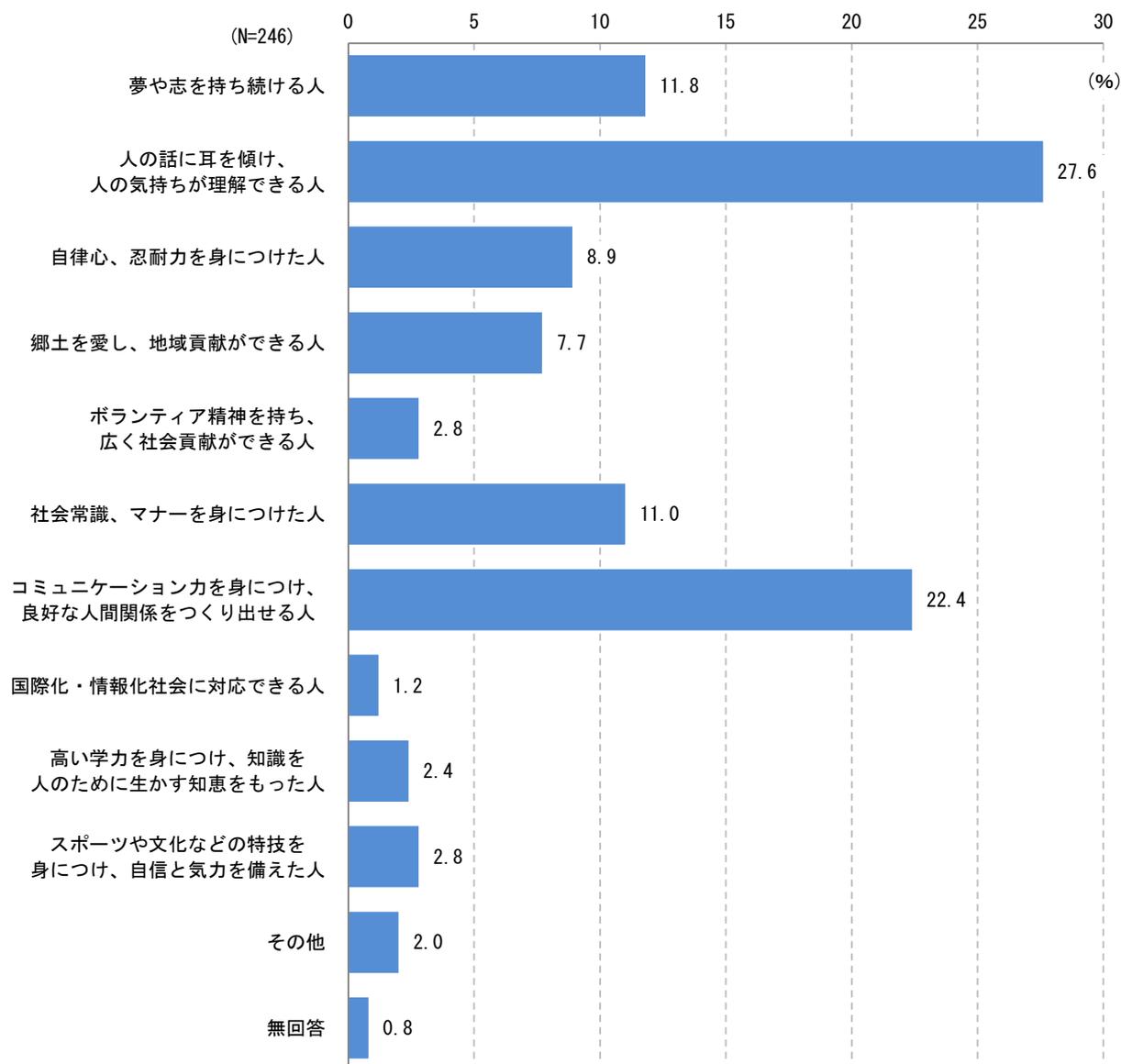
(4) 一番なってもらいたい五條市の子ども像

問31 一番なってもらいたい五條市の子ども像はどんな姿ですか。上記問の、A～Jの中から一つだけ選び○を付けてください。

その他に○を付けられた方は、その理由を下記に書いてください。

【図表 6-4 一番なってもらいたい五條市の子ども像】

※この設問は、複数回答扱いとして集計している。



一番になってもらいたいと思う五條市の子ども像としては、「人の話に耳を傾け、人の気持ちが理解できる人」が3割弱（27.6%）と最も高く、次いで「コミュニケーション力を身につけ、良好な人間関係をつくり出せる人」が22.4%、「夢や志を持ち続ける人」が11.8%、「社会常識、マナーを身につけた人」が11.0%となっている。

(5) 小学校・中学校に期待すること等（自由記述）

問 32 中学校の先生の視点から見て、小学校に期待すること、小学校の先生から見て中学校に期待すること等について、あなたの考えをご記入ください。

【図表 6-5 中学校教職員の視点から小学校に期待すること等（まとめ）】

＜ 意見内容（分類） ＞	＜ 件数 ＞
■ 社会性・規範意識等の指導	19 件
■ 対人関係能力や自主性の育成、心の成長等	12 件
■ 基礎学力向上	11 件
■ 小中学校間の連携・交流、相互理解	10 件
■ 基礎体力向上	6 件
■ 指導力の向上	5 件
■ 小学校で学んできたこと、学校生活の様子等を知る機会	3 件
■ 保護者との関係構築	2 件
■ その他	6 件

【図表 6-6 小学校教職員の視点から中学校に期待すること等（まとめ）】

＜ 意見内容（分類） ＞	＜ 件数 ＞
■ 学力の向上（確かな学力、専門的知識）	23 件
■ 思春期の難しい時期での接し方、生徒一人ひとりに目を向けた対応	21 件
■ 小中学校間（教職員間）の連携・交流、相互理解	19 件
■ 小学校で学んできたことの継続、向上	12 件
■ 進路や将来を選択する力を身につける教育、可能性を伸ばす指導等	10 件
■ 生徒指導や社会性・規範意識等の向上	9 件
■ 生徒の興味・関心を引くような専門的な授業等	3 件
■ 指導力の向上	2 件
■ 体力の向上	2 件
■ その他	5 件

(6) その他五條市の教育に期待すること等 (自由記述)

問 33 その他、五條市の教育に期待すること等について、ご意見があればご記入ください。

【図表 6-7 その他五條市の教育に期待すること等 (まとめ)】

< 意見内容 (分類) >	< 件数 >
■ 子どもたちの成長や育成、将来につながる取組や環境づくり	18 件
■ 教職員の配置や人員確保、資質の向上	8 件
■ 地域や家庭等と連携した教育の推進	8 件
■ 五條市のよさを生かした独自の取組等の検討、推進	7 件
■ 小中一貫教育・学校適正化に向けた課題の解消	7 件
■ 人を育てる教育等の推進	6 件
■ 教育予算の増額	4 件
■ 郷土愛等の育成	4 件
■ 教職員向けの支援や環境づくり	3 件
■ 魅力ある五條市に向けた取組の推進	2 件
■ 確かな学力が身に付く教育の推進	2 件
■ 家庭への支援	2 件
■ その他	3 件